

月報

1983: 1 月 號



シンガポール日本商工會議所

〈目次〉

(1983年 1月号)

1983年新年随想

年頭所感	(日立造船)	水戸 清	1
新年随想	(三井物産)	青柳 茂雄	2
1983年の展望	(東京銀行)	岸 寛正	4
外国語と日本人	(日商岩井)	大山 治郎	5
年頭激感	(トミーシンガポール)	後藤 敏邦	8
シン雑感	(東京海上火災保険)	倉重 正樹	10
“タダの人”後日譚	(三菱商事)	林 孝雄	12
ザル碁打ちの春の夢	(三井銀行)	平井 喜平	13
大型店ラッシュの現状	(伊勢丹シンガポール)	筒井 義雄	15
と今後の見通し			
春を待つ	(シンガポール松下無線機器)	小出 富夫	17
1983年を迎えて	(岡本シンガポール)	早船 好蔵	19
1982年を顧りみて	(ハイモールド)	七戸 真次	21

新年随想	(NEC シンガポール)	黒岩 奂	23
新年に当り	(伊藤忠商事)	豆原 寛	25
年頭雑感	(三菱銀行)	田中 寛治	26
人生百年	(シンガポール・ジャパン・ マーチャント・バンク)	森 茂二郎	28
迎頭赶上	(シンガポール・野村・ マーチャント・バンク)	福田 俊介	31
ASEANへの期待	(日商岩井)	末包 盛之	33
新春雑感	(住友商事)	福森 鋭一	34
逆境の中でのパワー	(ペトロケミカル・コーポ レーション・オブ・シン ガポール)	小見山大輔	36
1983年も一層のご協力を...	(日本貿易振興会)	沢池 忍	39
JOEAの本年の活動	(日本在外企業協会)	辻 彰一	41
1983-73-63-53 10年単位で見た日・シ関係...	(日本経済新聞アジ ア総局)	斉藤 志郎	43
“JUGAS(元在日大学卒業生協会) メンバー招待のタベ”を開催			47
理事会の動き			51

Medisave Schemeに関する意見 …… (事務局) ……	54
シンガポール日本商工会議所役員・監事・名誉会員・ オブザーバー一覧 ……	55
資料 : Table 1. Real Gross Domestic Product. Table 2. Productivity Increases in Singapore Table 3. GDP, Inflation and Productivity Growth Rate, 1981 and 1982 ……	58
12月～83年1月の主な経済記事 ……	60
広報欄 ……	62
資料案内 ……	63
編集後記 ……	65

表紙絵：シンガポール日本人学校
中学1年、小久保圭子作品

～～表紙について～～

今年はデザインもレイアウトも従来とがらりと趣向をかえて、御覧
いただいているような表紙にしてみました。「南国のものをもとにし
た構成―色彩と平面構成―」という与えられたテーマで描かれた、日
本人学校中学部一年生の作品の中から選んだものです。

明るく、若く、力強いこの表紙が、シンガポール経済に、ともすれ
ばのしかかってくる暗雲を、ふきとばしてくれるのでは、と云う願い
が作品を選んだ広報委員諸氏にありました。

作品の選考に際し御協力いただきました日本人学校中学
部美術担当の楠真理子先生の御好意にこの紙面をかりてお礼申し上げ
ます。作品は中学部一年生 小久保圭子さんのものです。

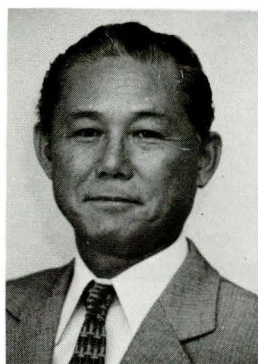
トツパン 吉川 直身

新年随想

1983年

シンガポール日本商工会議所

年頭所感



会 頭

日立造船ロビンドックヤード(株)

社長 水戸 清

~~~~~  
会員の皆様、新年を迎え謹しんで  
お慶び申し上げます。

本年は、昨来以上に厳しい不況の下に新年を迎えておりますが、シンガポールにとっては、リー首相の年頭メッセージに指摘されている如く文字通り“試練の年”になろうかと存じます。具体的には、世界的な同時不況の下で今年におけるシンガポール経済は、とくに製造業部門の成長低下が著しく建国以来はじめての

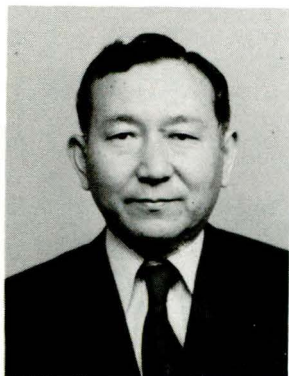
低成長が長期化することが懸念されております。

しかしながら、こうした不況時にこそ冷静に将来を展望し、過去2度にわたるオイル・ショックを乗り越えた日系企業独自の創意と工夫をもつて当国経済の活性化に貢献することが我々に課せられた重要な使命であると存じます。

当商工会議所といたしましても当国政府並びに地元関係機関との連係を一層強化する一方、会員の皆様に直結する事業を積極的に展開する所存であります。従いまして、会員各位におかれましては、会員相互の協力関係を強められ、各企業の繁栄を図られると共に日星両国の友好と相互の経済発展にご尽力願いたいと存じます。

年の始めにあたり、会員各位及びご家族の皆々様の一層のご健勝とご多幸を祈念いたしまして年頭の挨拶とさせていただきます。

## 新年随想



副会頭

三井物産（株）

支店長 青柳 茂雄

~~~~~

明けまして御目出度うございます。

新春随想としてふさわしいかどうか分かりませんが、昨年秋日本人学校児童生徒の父兄及び先生の間で可成物議をかもした問題を御紹介し、又「海外日本人学校のあり方」につき日頃考えていることを述べて見たいと思います。

昨年日本人会文化部で元バンコク・ジャパントレードセンターの所長をしていた方を講師として「帰国子女の娘達に大学・高校を受験させて考えたこと」と題する講演をして貰ったことに問題の端を発しております。その内容が内容であつた上に、その後当地日本人会誌「南十字星」

に掲載されたため父兄先生方学校関係者の間で問題となり、加えて11月10日付朝日新聞特派員メモ欄でもこれが聊か誤解を招き易い形で取上げられたため又々波紋を大きくした問題です。

波紋を寧ろ鎮め度いと考えておりますのでこの内容を再び紹介するのはどうかとも思いますが、内容の紹介なしに話を進めるわけにもゆきませんので不本意乍ら述べますと次の通りです。帰国後の高校入試の実戦論としての4つの心得。第1は「できれば実力以上の内申を得るため中学の9科目それぞれの担当の先生に毎年お中元お歳暮を欠かさないこと」第2は「子供は先生に良く思われるおりこうさんであれ。先生の前ではおとなしく悪いことは先生のいないところでやりなさい。」第3は「海外の日本人学校と違い国内中学校はなるべくレベルの低い中学をえらぶこと」最後は「第一志望が私立学校であつても、少く共2学期の通知表を貰うまでは公立志望を押し通すこと」、講師は話をよりおもしろおかしくするためにより露骨な表現を用いたのでしようが、教育の立場からは全くもつての外の内容で又日本人

学校の先生方に伺った所でもシンガポールの現実とは全く無縁のしるものようです。朝日新聞記事の標題が「ある教育の現実」特派員メモシンガポールとあるため恰もシンガポールの現実が上記の通りであるような誤解を招き易い形になっており、そのため父兄先生方の間で問題が再燃しましたが、記事の内容はシンガポールがこうだとは一言も書いてありませんし講演内容のポイントを可成正確に伝えて評論しております。何れにせよ早晚日本人学校の立場から反論的なものが出るものと思います。

扱て「海外日本人学校のあり方」とは古くて新しい問題であり常に関係者を悩してきた問題と思いますが、私は次のように考えています。海外日本人学校で学ぶ児童生徒の大半恐らく100%近くは、いずれ日本に帰って教育を続ける人達であり、従つて一義的には日本に帰つてその俚日本の学校にSMOOTHに溶け込める学力をつけることがその目的であると思いますが、同時に折角外国にいるのだからこの機会に日本に居ては仲々得難い修練をつませることも積極的に心掛けるべまででありましょう。

語学の問題、外国における生活様式マナー、外から日本を見る目を養う等、将来立派な国際人として成長する素地作りを心掛けるべきでありましょう。然し基本的には矢張り真に日本的なものを外国にあつても努力して身につけることが大切と考えます。最近感銘を受けた本で深田祐介氏の「われら海を渡る」と云う本があります。その第一章として副題が「欧米人にこよなく愛された日航欧州支配人の秘密は真に日本的なところにあつた」と云う章があります。種々のエピソードが載っております。所詮国際社会、国内社会を問わず人間社会は人間と人間との付合いであり、人間の魅力は国境を超えたものであること、同時に日本人である以上日本人としての良き伝統・素養・識見を備えた人間が外国人より真に尊敬を勝ち得るのだと云うことが語られております。私の余り長くはありませんが外国生活における体験からも全く同感であります。仮に学校乃至家庭が所謂要領型人間を育てる場に墮すとすれば、それは由々しき問題であり本来の在り方より全く逸脱したものと云わざるを得ません。

昨年秋の話題を契機に所見の一端を御披露した次第。

1983年の展望



副会頭

株式会社東京銀行

取締役支店長 岸 寛正

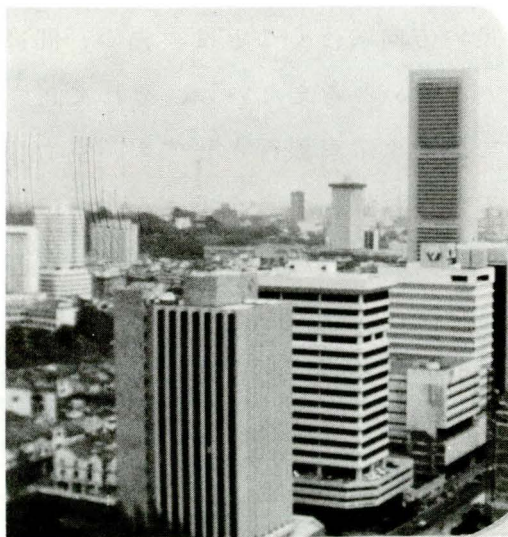
~~~~~

会員の皆様、明けまして、お目でございます。旧年中は、公私ともに、色々と、お世話になり、厚く、御礼申し上げます。今年こそは、本当に、皆様にとって、公私ともに、良い年になりますよう、祈っておりますし、楽観的かも知れませんが、そうなる、少なくとも、昨年よりは良い年になると思います。昨年も本紙で、82年の展望として、世界経済は、経済的要因よりは政治的要因で変動するのが心配ではあるが、後半には、景気も回復することを期待する、というようなことを、申し上げました。しかし、残念ながら、予想は必ずしも、当らず、景気の回復は、どうも、今年の後半と云わざるを得ないようでございます。もつとも政

治的要因で、動かされるといった予想の方は、当りで、東欧、中近東、中南米と予想外の出来事が起り、高金利とも、相俟つて、米ドル高が続きましたが、ようやく昨年11月後半から、修正が始まった、といえると思います。その意味では、今年は、米ソの緊張緩和を軸に、国際政治面では、落ち着いたものになることを期待したいし、経済面でも、依然として、発展途上国を中心に、国際収支問題、債務累積問題等々が続くと思いますが、米国、日本等の先進国の低金利政策を始めとする、景気回復策が、具体化され、また、IMF世銀を始めとする国際機関と、各国中央銀行と、各国民間銀行との、三者協調による、対発展途上国債務問題対応策も、具体化され、少なくとも良い方向に行くことは、先づ、間違いない、と考えたいし、それに向つて、我々東京銀行としても、協力して行かねば、と考えている次第で、ございます。当国シンガポールも、昨年は、一般産業界の経済成長が、マイナスといった、建国以来の事態に直面し、生産性向上のための、諸施策の導入、或は景気対策もかね、MRTプロジェクトの早期具体化等



等の手を打つてはおりますが、前半は少くとも、相当厳しい状況が続くものと思います。しかしながら、世界景気の回復のテンポ次第では、廻りのアセアン諸国ともども、景気回復は大いに、期待出来るのでは、ないかと思ひます。尚、私こと、皆様にいろいろとお世話になりましたが、此の度、急に帰国を命ぜられ、当所の方も、任期半ばで、申訳けないのですが、誠に残念ながら、お別れすることになりました。本当に色々ありがとうございました。皆々様には、呉々も健康に御留意され、日本とシンガポールを始めとする、アセアンの発展のため、益々、御活躍下さいますよう、心からお祈り申し上げます。



## 外国語と日本人



理事：総務担当

日商岩井株式会社

シンガポール支店長 大山 治郎

~~~~~  
今から2年半程前シンガポールに赴任した当時ローカル・スタッフの云うことが分らず当惑していたところ“いや、そのうち慣れますよ。”と云つて慰められたことを記憶している。勿論これ英語力不足の他にシンガポール特有の発音のせいもあった。

その後自分なりに何とかこれを克服すべく努力して来たつもりだが今もつて解決されていないことを身にしみて思い知らされる機会に度々遭遇する。中学で初めて英語を習いはじめてから既に35年会社に入つてからも職業柄外国語に接する機会は多かつた筈であり今もつて映画をみても分らないのは何とも情けないし

同時にどこかに決定的な欠陥があるのではないかと思うようになった。

2〜3ヶ月程前或るホテルよりディナーショーに招待された。大きなダイニングルームの前方に舞台が作られ、そこでコメディイが演ぜられた訳けだがジョークがやたらに出てくるらしく廻りの人は飲食そつちのけで笑いころげている。悲しいかな我が日本人のテーブルはしんと静まりかえつてゐる。只々終りの早からんことを願つて時計ばかり見ていた次第。

こんなことがあつてから間もなく或る新聞の夕刊に“如何にしてインド人を黙らせ、日本人に話させるかが国際会議に於ける議長の重要な任務である”と書かれているのを読んだ。日本人がインド人に比較してそんな寡黙だとは思えない。これは恐らく同時通訳などのついていない発言者自分で英語で話さなければならぬ国際会議でのことだろう。日本人が他国民に比べ発言が少ないというのは恐らく語学力に問題があり話すのが億劫になつてゐることに原因があるのではないか。私もこれ迄日本語で云わせてくれたらと悔む場面に何度立たされたか分らない。

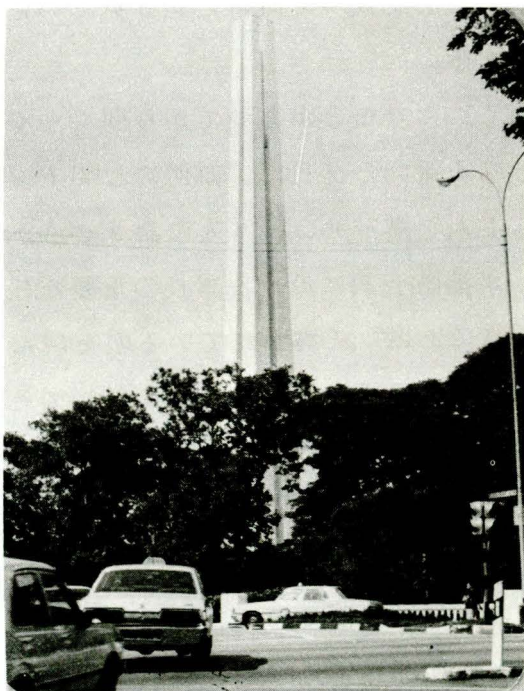
考えるに外国語に堪能になるには3つの条件が必要だろう。まづ第一に外国語を若い時に習い始めることである。それもまだ読み書きがよくできない頃がよい。子供が外国語の習得が早いのは誰れもが認めることである。前の駐在の時息子は1年もすると幼稚園で堂々とドイツの子供とやりあつていたしそれもその場において息子の顔を見なければ喧嘩の相手が外国人などとは到底信じられない程だつた。現在の会社のセクレタリーは福建か潮洲かの別はあつても中国語を母国語(?)のように話す。しかし驚いたことには全く読み書きができないのである。子供の場合もそうであるがヴオキヤブラリーにあるものしか話せない私にとつて読み書きできないことが話せるというのはミステリーであり到底真似ができない芸当である。

第2に母国語と類似性が挙げられる。欧州人に英語を巧く話す人が多い。単語の相当部分が同じ又は容易に想像がつくのであるからその有利性は当然のことである。セクレタリーを雇う際に英語を話すことを条件とすると当時好景気で完全雇傭に近かつたドイツでは人が集まりにくい

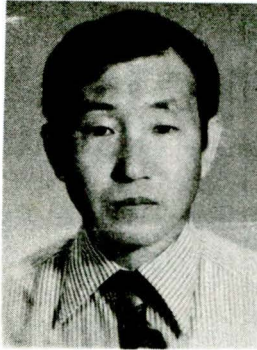
とあつてこの条件をはづして新聞広告し採用した女の子が2〜3ヶ月もすると日本人駐在員と対等に話すようになり半年も経つとスピーキングのスピードでは既に日本人を遥るかに凌駕しているといったケースをいくつも経験している。

第3にはあたりまえのことながら外国語習得の機会を多く持つことである。日本では英語を習う際文法を徹底的に叩き込まれる。その結果として話す際は自分の話す文章が文法に違反していないかどうか絶えずチェックするようになる。誤りを犯すことを極端に恐れるようになる訳けである。過日水戸会頭と一緒に組でゴルフをする機会に恵れた。フェアウエーを歩るきながら話はいつか外国語習得の苦勞に及んだ。その際会頭の会社で日本に研修に出したローカルスタッフが2ヶ月程して日本語で会頭に手紙を寄せて来たことを聞いて驚いた。さらに驚いたことには手紙は水戸“君”と書かれていた由外国語に上達するためにはこの位の大胆さが必要なかもしれない。どうも日本人の場合教養(?)が邪魔して恥しさが先立ち折角の上達の機会を逸してしまっているのではなかろうか。

さて第1の年令第2の類似性については今更どうしようもないので唯一残された“機会”に期待しよう。今年は積極性の大敵“恥”に別れを告げ、ひとつ大いに成果を挙げてみたいと考えている。



年 頭 激 感



理事：企画・労働担当

トミー（シンガポール）株式会社

社長 後藤 敏邦

最近非常によく夢を見る様になった、それも決つて狭い水道を冷汗かきながら悪戦苦闘し巨船を操船している所である。

何処の水道と断定出来る程周囲の状況は明確ではないが、多くは強烈な印象として残っている練習船時代よく通過した“来島海峡”（瀬戸内海）、或は初の社会人として日本郵船の安芸丸に次席三等航海士として乗船、胸おどらせふるえながら船橋で通り過ぎていつたシンガポール海峡そしてマラッカ海峡の風景がこんぜんとなつて出てくる様だ。

夢の中でありながら俺もこの年になつても腕の方はマンザラでもないわい……と合点しながらそれこそ無我

夢中、眼が覚めると何かタイムトンネルから抜けて来たかの如き何んとも形容出来ぬ半分心地よい半分ドキドキの疲れに襲われている次第。

齢いまさに50才に文字通りあと一歩と迫り堂々たる熟年（1月1日現在48才と364日）、俺もいよいよ過去をなつかしむ年令になつたかといささか惘然たるものあるものの、燃える様な血をたぎらせ、ありあまるエネルギーを全身から発散、物事にぶち当つていた練習船時代が残念ながら本当に一番なつかしく思い出されてくる昨今です。

あれは確か昨9月の或る日、取引先からの帰途ジュロンヒルをぶらり夕刻訪れた所デリックを林立させた昔タイプの貨物船が一隻白波をけたてて真赤なすばらしい夕焼けの西空の下マラッカ海峡に姿を消してゆきました。これが丁度来星以来10年の感慨と重り想像以上のインパクトとなつて記憶の脳髓をたたいたのかもしれませんが。

……空をけずる高層ビル群、広く美しい高速自動車道、のどかな噴水で涼感をあおつたロータリーが消え機能一本となつた交差点の信号……この3点を除けば抜ける様な青空、緑の

トンネルそして赤い屋根の住宅がすばらしい調和感を見せる美しいシンガポールは殆ど10年前と変わらず、三海峽は更に変わらず船舶銀座として一層にぎわい、東洋の入口の面目躍如です。

1970年代初頭からダイナミックなすばらしい経済成長を続けて来たこの美しいシンガポールもさすがにこの世界不況の影響はキビシク今最大の試練の年を迎えていると申して過言でないでせう。

今後どの様な発展の10年となり1993年は如何なる様子となつていいのか誠に興味ある所です……相変わらず美しい街並と緑を残しつつ堂々たる先進国の一つとしてASEANの金融・技術の中心となつていいのか或は全くの近代的なしかし無味乾燥の工業都市となつてしまうのか、はたまた良き時代をなつかしむだけの一種の先進国病におち入り無気力な街になつてしまうのか……。

社会人となつて以来最も長く居住した場所がシンガポールになつてしまつた今、プロシンガポーリヤンとし今後の発展を応援するにやぶさかなくこれ迄のクリーン、グリーンシンガポールのイメージをそのまま

調和のとれたシンガポールとして成長していつてもらいたいものこれを願うや切である。

さて最後に本職の玩具ビジネスに全力投球する事は勿論申す迄もありますが個人として特に今年は人生の最大の節目であり且つ最も充実するであろう50代を目前の最後の一年、とことん充電いたしたいと考えてます。

手近の所として先ずはシングル入り（希望は大きい程よろし）とサンゴ会の優勝（これは可能性あり……しかし優勝は誰れでも出来る事、誰れにでも簡単に出来るものではない無優勝最長不倒記録を目指した方が男かな……）

ゴルフと女房は仲々コントロール出来ませんねえー。

多謝！



シシ雑感



理事：渉外担当

東京海上火災保険シンガポール（株）

取締役／総支配人 倉重 正樹

~~~~~

今年はシシどし、これでまず連想されるのは、日本人全体がエコノミックアニマルとついこの前まで世界各地で云われ騒がれた頃の猪突猛進、あの鼻面をあげ牙をむきながら、只ひたすらガムシヤラに突進する姿であるが、日の出の勢だつた日本の経済情勢も高度成長が終焉しいまや安定成長の時期にあつてみれば、このイメージは余りピンと来ないようだ。しかしシシのイメージは、それでも男性的（雌猪に怒られるかもしれぬが）で、陽性なムードを与えてくれる。

そこで、同じシシでもシンガポールの国名は獅子の方だが、折角シンガポールに在住することだし、シシ

の尻取りよろしく話を獅子に移し、このイメージを考えるに同様男性的かつ陽性で暗いところが全くない。

そもそも獅子は草原の王者、動物園で檻の中ではなく放し飼いにされている獅子の雄姿には、ゆつたりと構えて威風あたりを払うものがある。この必要な時以外は動かさざると山の如き獅子がなぜ中国であの賑やかなライオンダンスの主役になり得たのか不思議にも思うが、眠れる獅子が一旦緩急あつて目を覚めたときに示す強さが、何んとも頼もしく悪魔払いの道具にさせられたのだろう。

かつて、当地でも日本人会主催で放映したNHK提供のシルクロードでも語られた西遊記には、青獅子の変化が登場するが、これは唐の時代長安から西域天竺に向け経文をとり旅立つた三蔵一行が出合つた中でも最強の魔怪（この場合は悪魔）で口を開いて呪文を唱えようと高山でさえ呑み込んでしまうと云う恐しい術を会得していた。さしもの神通力に長けた孫悟空といえども一人（または一匹）では歯が立たず、天部の神々に助けを求め、その力を得てやつと退治することが出来たというあの



痛快な話だ。口を開けて呪文を唱えるなどまことに中国の大陸的荒唐無稽で天衣無縫なところがある一方、ひとたび草原で咆哮すればその声四方より返つてその居場所を知らせずと、これまた大陸的雄大な表現により獅子の笑が思い浮かばれて、化物とは云えそこには百獣の王の面目躍如たるものがあるろう。

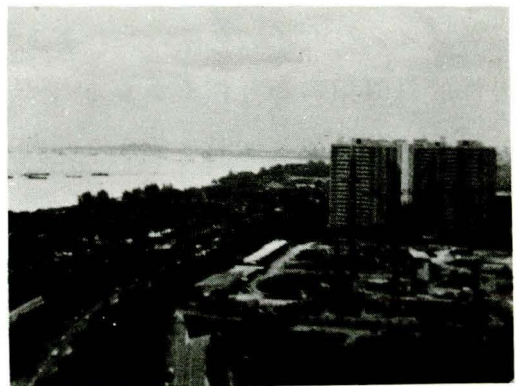
さて、ライオンダンスは、よく祝事に登場するが、それはこの百獣の王を縦横に躍らせることにより厄払をし商売繁盛を祝い祈る中国人の信心深さを良く表わしていると思う。

日本の獅子舞もこの中国のライオンダンスにその起原を発していると言われるものの本によると、唐から伝わった時は、舞楽として神事に奏するものだつたのが、後世になつて大神楽などで悪魔を払うものとして行われるようになったと云う。おそらくこれが次第に庶民のものとなつて、更に近世に入ると江戸では威勢のいい江戸っ子の好みで江戸文化の洗礼を受けて「粋」に粋にと志向されるようになったのだろう。東京でも、筆者が高校生位いの頃までは、正月3ヶ日間に獅子舞が門口を訪れたものだ。玄関先で正月を寿ぎ家内

安全を祈つて目出たく舞い納めに獅子頭に何がしかの御祝儀を渡したものだ。しかしこの慣行もいつの間にか消え少くとも一般の住宅地域では見られなくなつて久しい。かつてのエコノミックアニマルの当時から経済合理主義的精神の許、獅子舞の効用など信じなくなつたせいかもしれない。域いは馬鹿々々しくて成り手が居なくなつたのかもしれない。このためかこの庶民との間に存在した獅子舞は、最近でむしろ舞台芸術としてまでグレードアップされここで立派に生きのびているようだ。

シンガポールにあつては、国名からしても庶民の獅子舞、ライオンダンスは、はやりこそすれ、廃れることは有り得ないだろう。

シシ年で話が猪から獅子に脱線して済つたが、シンガポールの経済とともに我々日系企業にとつても明かるい年であることを祈つてやまない。



## “タダの人” 後日譚



理事：全般担当  
三菱商事株式会社  
支店長 林 孝雄

~~~~~  
昨年 of 新年随想に、“一夜明ければタダの人”と云う拙文を寄せた。これは、ゴルフに準えて、何事によらず、急に背伸びしても碌な結果は得られない、と云うことを自らに云い聞かせた積りである。

扨て、そのゴルフであるが、その後も“タダの人”振りが続いて居る。然し、もう余りカツカしないことにしたのである。つまり、“タダの人”の状態がノーマルなのだ、と思うことにした訳である。こう思い込めば、スコアに一々一喜一憂する必要もなく、ゴルフは専ら、運動の為と、人附合いの為と、割り切れるのである。

先般、東京に出張した際、中島前

大使とお話しする機会があつたが、シンガポールは良い処だ、何んとなればゴルフが何時でも出来るから、と述懐して居られた。それに引き換え、東京では忙しくて、ゴルフどころではないと、零して居られた。

小生も、この恵れた環境に居る間に、存分ゴルフを楽しんで、健康の増進と、皆さんとの附合いを深め度いと念願して居る次第だが、それにしても、もう少しで良いから、“タダの人”を脱却出来ぬものかと、ついつい愚痴が出るのは、矢張り凡人の浅ましさか。



ザル碁打ちの春の夢



理事：財務担当

株式会社三井銀行

支店長 平井 喜平

~~~~~  
会員の皆様、新年明けまして、お目でございます。引続き理事として、財務を担当させて頂けて居ります。縁の下の力持ちとして、皆様の御活動に少しでもお役に立てば、と思つて居ります。よろしく御指導下さるよう、お願い申し上げます。

縁の下の力持ちと言えは、日本棋院シンガポール支部の方も、日本航空の堀田さんの後を引継いで支部長の役を務めさせて頂けて居ります。こちらの方の目的は、囲碁の指導と普及にあるかと思ひます。しかし小生名にし負うザル碁打ち由に人様を指導する等はまことにおぼつかないのであります。引継いだ以上、会場の

設営、案内作り、会費の徴収、棋院との連絡等々、まさに縁の下の力持ちになつて、少しでも普及の実を挙げられればと念じて居ります。こちらの方もよろしくおねがいします。

昨年一年を振り返りますと、当地囲碁界の方は、支部員はジャカルタ、クアラルンプール、ペナン在住の在外会員の方々も含めて常時50余名を超え、又例会の方も、日本人クラブの御支援を得て毎月2回開催して来ました。今年も新設日本人クラブが開館になれば例会の方も再開したいと考えて居ります。又、11月には、日本航空と地場囲碁人から成る Singapore “Go” Association と当支部の三者共催により、第5回世界アマチコ選手権大会出場者決定戦、地場囲碁人との親善試合、プロ棋士川本八段による指導碁会を行ないました。これは日本航空の強力なお力添えのおかげで出来た訳ですが今年も更に大きく発展させたいと考えて居ります。

さて、ザル碁打ちと書きましたがザル碁と言うのは、ザルで桶に水をくんでいるように、くみあげた水が途中で流れてしまい、なかなか、桶の中に水がたまらないように、碁が

うまくならないの意味かと思います。それでも、ザルはザルなりに一生懸命くめば、二、三滴の水と言えども少しはたまるものでしょう。ところが小生の囲碁は長年やつて来て桶の底をみてみたら、一滴もたまっていない。いや、たまらない訳です。どうも良く見て見たら、桶だと思つていたのが、ザルでして、ザルでザルに水を汲み込んでいたようです。

そこで今年は両方のザルにビニールでもかぶせて、少しでも水がたまるように、一目でも腕の上るように努めたいと思います。強い方、ぜひ御指導下さるようお願い申し上げます。

強い方の一人、M氏に御指導載いて居たら、今度チーク材で碁盤を作り、象牙で碁石を作られたと言う。拝見させて載き「うーん」とうなつてしまいました。棋具は日本では、櫃（かや）の矢地杵の碁盤、日向蛤の白石、那智の黒石、伊豆七島の御蔵島に自生した桑、島桑の碁笥（ごけ）が、その極め付けとされている。しかし、私の如き安サラリーマンが、一揃い何百万円もするこの種の道具を幾組も持てる訳がなく、その上その土地で採れるもので棋具を作れば、

これは面白い記念が出来ると感心し、早速、マネ碁を打つこととしました。碁盤材はジャカルタの友人にたのんでチーク材を切り出してもらい、現在我が家で乾燥中です。ゆくゆくは、日本に持ち帰り、碁盤師に作つてもらおうと考えています。

そんな事をしている或る日、マニラのデパートの民芸品売場先、ワイフに何かおみやげを、と思いならが見廻して居たら、碁笥を売っているでは、ありませんか、店員に聞いたら、キャンデイ入れとか言つて居ましたが、通常ふたにつまみが付いて居るのが、これにはなく、正に碁笥にぴつたりでした。これが東南アジア各地での碁笥集めの第一号で、その後、バンコック、チェンマイ、ジャカルタ、クアラルンプール、コロンボ等々で碁笥になりそうな器具を集めて来ました。先日、バンコックにたて続けに行きましたら、知り合いから、「又、碁笥（後家）さん探しですか」と聞かれたのには、おどろきました。又、前出のM氏が、象牙の碁石を作つたが、碁笥の良いのが見付からないとの事ですので、私の所有のものから、一つお貸ししてありますが、「平井さんから、碁笥



（後家）さんを拝借している」と言われています。

今年も又、各地を廻る時は、又民芸品売場を見て歩きたいと思います。誤解なきよう。冗談は別として、この種の民芸品を棋具の一つとして、日本に輸出すれば囲碁人口1千万と言う日本の事ですから東南アジアの文化紹介に加えて、少しは東南アジアの対日輸出の足しになるのではないのでしょうか？

その他、各地で見付けた、基石や碁盤の事も書く予定でしたが、予定の枚数になりましたので、ここで打ち切りたいと思います。ザル碁打ちのザル言をお読み載きありがとうございました。



## 大型店ラッシュの現状 と今後の見通し



理事：労働・経営研究委員会担当

伊勢丹シンガポール

取締役支配人 筒井 義雄

~~~~~

当地の小売業の現状は世界的不況による観光客の購買力が減退した部分と、シンガポールの高賃金政策により現地客の消費水準が上昇している部分とが交錯し、マダラ模様を呈しているといつたところです。地域的にみれば中心部は前者の影響を、又周辺部は後者の影響をより多く受けているようです。

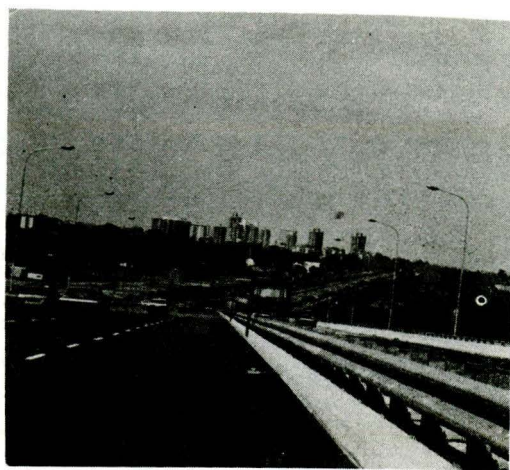
82年末より大型店の出店ラッシュが始まりましたが、この急激な出店競争は86年迄続く予定です。発表されているだけでも日本、フランス・オーストラリア各国からの出店に加え、現地組に雇われているアメリカ人、イギリス人のマネジメント

が競うわけです。小売の年間売上伸び率は1桁台しか望めない現状で、大型店の売場面積は86年迄に2倍以上になるはずですが、しかも経費比率は確実に上つています。販売員は相変わらず採用しにくい職種のため賃金は今後も年率10～13%は上昇すると思います。家賃もよい立地は上昇し、又宣伝費の単価も10%程度は上つています。従って86年迄、小売業は各社の生存を賭けての大激戦となります。

こうした現状で出店競争の第1ラウンドは大型化と高級化を競って指向しているように見受けられます。外国の著名デザイナーに設計を依頼し高級な店舗作りをした上で、海外の有名ブランドを導入する。又サービス向上のため社員教育も外国から講師を招いたり、社員を海外研修に派遣しています。新規参入組に対して既存の現地組も力を付けて来ており、いくつか脱落する所が出て来るかもしれませんが全体のレベルは確実に上つて来ております。そして終局的には各社が自らの力で特徴ある商品力を維持でき、又サービスの質を高めていけるかが生き残りの鍵であり、ここに各々の特色がでてくる

と考えます。将来は立地や規模もいたづらに出店、大型化を計るのではなく、各社の専門分野、個性、又はコーポレート・イメージに合った基準で決定がなされていくと思われます。地元の購買力に依存するだけではとても成り立ち得ない店舗数ですが、競争と共存の結果ユニークで多様化した小売のセンターが出来れば近隣諸国から今迄以上の購買力を引き付け得る可能性があります。

80年代末から90年代初めにかけてMRTが完成すると当地の生活様式は大きく変るとみられています。このMRTは消費行動にも少なからぬ影響を与えると思いますが、その結果が興味のあるところです。



春を待つ



理事：労働担当

シンガポール松下無線機器（株）

社長 小出 富夫

~~~~~  
シンガポールへ来て2度目の正月を迎えることになった。当地では正月といつてもピンとこない。街を歩きながら、汗をふきふきショウウィンドウに降った綿の雪を見てもその感がひとしおである。

私は根つからの雪つ子である。雪がしんしんと降る1月。新潟県高田市（現在は上越市と改名）に生まれた雪つ子である。そのせいもあってかスポーツはスキーと山登りを好んだ。いや、今でも好きであるが、何の因果か雪も降らず、高い山とてない当地に勤務する身となっているので、それはままならぬ。

今はといえば、仕事で出張し、折に、飛行機の窓に額を押しつけて、朝日

に輝くマツキンレーに胸を躍らせ、アンデス山脈を遠くに見てネバド、アルパマヨに恋し、アルプスやピレネーを越える時には、山の唄を思い出すくらいがせいぜいである。

川端康成の小説「雪国」の出だしにある「トンネルを抜けると雪国だった」というのは、体験した人でなければ実感としては浮かんで来ないだろう。上を見れば青い空、下を見れば関東ローム層の黒々とした地肌という景色から、一瞬にどんよりとした灰色の雪空と見わたす限りの銀世界へと変化するのである。何の予告もなしに異次元の世界へ連れてこられた。そんな感じさえする。

私の生まれた高田という所は、大して取り柄のない町であるが、平地における積雪量の記録（昭和2年に312センチ）を持つている。スキー愛好家の間では、ノルウエーのレルヒ少佐（当時）による日本スキー発祥の地としても有名である。近年では、NHK大河ドラマ「天と地と」により、上杉謙信公の春日山城が紹介され、今迄訪れる人としてなかった城趾や林泉寺にワンサと観光客が押し寄せ、最近ようやく落ちつきを取り戻したと聞く。

年によつても異なるが、12月から1月に積雪が始まり、3月末にはほぼ消え去る。その間3ヶ月余り人々の生活は雪の中に閉ざされる。今はそれほどでもないが、私が小さい頃は交通も跡絶え勝ちで全くの自給自足生活を強いられたものである。野沢菜や大根を四斗樽に何本も漬け込んだり、雪を利用した自然の冷蔵庫なども生活の知恵といえよう。

そんな雪国に暮していると何と春の待ち遠しいことか。ふきのとう、ねこやなぎ、という言葉聞いて胸をときめかすのは私だけだろうか。いや、雪国で暮したことがある人だったら誰でもそうではないだろうか。何ヶ月もの間雪にうずもれた生活を強いられ、3月の或る日、やつと訪れた春の息吹きを感じられる時、それがふきのとうでありねこやなぎなのである。

雪がとけて、川の堤防のところどころが黒い地肌をのぞかせ、その黒さが目にしみる。そこには枯れ葉をかきわけてふきのとうの萌黄色の芽がのぞいている。雪どけの水を集め

て波立ちながら流れている川のふちに、銀色のうぶ毛を風に吹かれながらねこやなぎがふるえている。何と待ちどおしい日であったろうか。この嬉しさは雪国の春を待つ人でなければわからないだろう。

春、日一日と太陽の光が強くなりひさしからしたたり落ちる雪どけのしずくの音もだんだん早くなり、地肌が見えてくる。まだ30センチも雪があるというのに、軒下の雨だれの落ちている所だけがとけて、上からのぞきこむと土が見える。この時の嬉しさといつたら何と表現したらいいのか、小石の何と愛らしいことか。雑草の何と新鮮なことか。ようやく春がそこまで来ているな、と実感して安心するのである。

ここシンガポールでは、雪国の厳しさもないが、春を待つ楽しみもない。



## 1983年を迎えて



理事：第1工業部会担当  
岡本（シンガポール）株式会社  
常務取締役 早船 好蔵

常夏の国シンガポールで早9回目の正月を迎える羽目になつてしまった。暮の13日夜2週間の日本出張より戻り、シンガポールはあたたかくて良いな—と思えたし、心の落ち着きを感じた次第である。今冬の日本は暖冬とは言えやはり寒い。11月27日夜行便でシンガポールを発つたが、出発時当地の気温は26度6時間余りで成田に着いた時は零下2度、年中暑い国で8年余の生活になれコートも持たぬ自分にとつてリムジンバスを待つ寒さは身にしみた。それ以上に冷々しているのが景気である。帰国早々12月14日出社して留守中の書類を整理していたら、

当月報1月号特集への投稿依頼があり、締切り12月15日厳守となつており帰国早々の多忙に迫われ、締切日もすぎた事だし、とぼけさせてもらうか—とたかをくくり12月16日午後定例経営研究委員会に出席し引続き開催された忘年会の席上で事務局長より原稿の督促を受け、いやはやシンガポールも冷込むな—と思いつつ、盃ならぬ水割をコップでがぼり、いささかわれよい、明けて重い頭をかかえながらテーマもなく、ペンを走らせる運命となった次第です。

思えば私のシンガポール滞在9回の正月の内1回目2回目は無我夢中に過ぎたにもかかわらず、例のオイル・ショックの後で世界同時不況苦勞の割には良い正月では無かつたが、3回目にしてやっと灯が見えた、4、5、6、7回は全般的な景気の好況と技術革新、設備の更新、増設で我機械業界は過去に例を見ないような寿命の長い好況に悪まれ、無難な正月を迎える事が出来た。

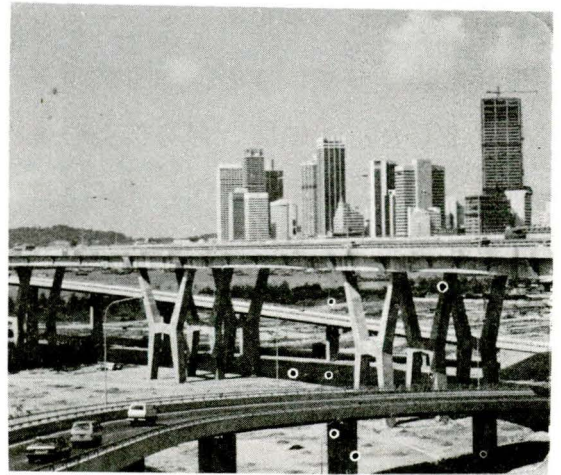
8回目の昨年の正月、当1月号月報に投稿の依頼を受け、機械業界の展望と題して、本年は我機械業界に取ってきびしい年明けとなった。と書

き始めた事を、記憶している。事実我機械業界だけにあらず、多くの業種にわたり、不況の風が吹荒れた年となった。9回目の正月にもし昨年と同じテーマでの投稿であるならば、書始めは、我機械業界は更にきびしい年明けとなった、と書く事になり、昨年原稿に更に更にだけ追加される文章となろう。

しかし不況の後には必ず好況が来る、好況の後には必ず不況が来る、そして再び好況が来る、不況の時には悲観論が台頭するし、好況の時には楽観論が台頭する、現在不況だからと言え、悲観的な面のみをとらえて意気消沈する必要は無い、この様な時こそ経営の見なおし、作業の改善を行い、体力の保存に勤め、次の好況に向つてエネルギーを貯る時でも有る。今回の不況がアメリカの高金利政策に起因する事は大であるが、この高金利も低下の方向に有り、増大する失業者に対しアメリカ政府も次の手を打たざるを得ないだろうし、アメリカの景気が好転すれば先進諸国も好転に向うものと期待される。

しからは今回の不況が、いつ好転するのかこれは為替相場同様の中させるのは難しい。

希望的観測も含め、もしこの常夏のシンガポールで10回目の正月を迎える事が出来得れば、10回目の正月は我経験に於ける3回目の正月にサイクルとして戻るものと確信する。





## 1982年を顧りみて



理事：第2工業部会担当

ハイモールド・プライベート・リミテド

取締役社長 七戸 真次

~~~~~

第二工業部会を担当しましてから、半年経ちまして、1982年も終りとなりました。この間、何等部会の皆様のお役に立つ事もせず、誠に申し訳けなく思っております。1983年には、任期が半年残っておりますので、心を入れ替へまして、少しでもお役に立つ様、努力する積りでおりますので、よろしくお願い致します。

1982年度で印象に残りましたのは、NPB（国家生産局）が実施致しました「生産性向上月間」の実行委員会に参加した事です。実行委員会は、シンガポールの10幾つかの経営者団体から、委員を送つて構成されました。

日本、アメリカ、ドイツ等の商工会議所や、銀行、ホテル、小売商の協会なども入っていました。

11月の「生産性月間」の準備の為に、3月頃から会合が開られ、毎月集つて相談をするのですが、その内容は、生産性を上げるにはどうしたら良いか、ではなくて、生産性の歌を作ろう、どんな曲がイイか、ポスターを作ろう、バッジを作ろうと云う様な事が中心でした。

私は或る時、NPB局長 Dr. Wong に「生産性の向上は、現場のWorkerの意識や、仕事のやり方にかかつているもので、Productivity！

Productivity！と叫んでも、効果はないのではないか？」と聞きましたら、彼は「それはそうなんだが現状のシンガポールでは、Productivityが何であるかを、意識している人は少い。だから最初はProductivity！Productivity！でいいんだ。これを繰返えし、繰返えしやるんだ。かつて汚れていたシンガポールも、繰返えし、繰返えし、Clean！Cleanと云っている内に綺麗になつた」と云う返事でした。

私は、生産性向上と、美化運動と

は、少々違うのではないかな。と思いました。街が美しくなつたと云う恩恵は、みんなが受け取れますが、生産性の向上の効果は、誰が受け取るのか、と云う問題があるからです。

併し委員会は、この期間中、各会社はどんな行事を行うか、と云った一覧表を作ったり、生産性の歌を選んだり、ポスターの配当枚数の議論をしたりして過ぎて行きました。やがて11月1日、Lee 首相 出席の下に、「生産性月間」の発足式が行われ、月間が始りました。ある会社は Productivity の幕で飾ったり、ある協会は Productivity と染めたカラフルなTシャツを配つたりし（私も一枚頂きました）、テレビに、新聞に、ポスターに、Productivity! Productivity! と叫べられて、月間は終りました。

私は今では、これで Productivity とシンガポリアンの間が近くなった、生産性の種がまかれたんだな、と思っています。

さて、最近のシンガポールの景気は悪く、その中でも、部品メーカーとして、私達の属している、電気業界は悪い方と云われています。御多分に洩れず、我が社も不景気で、い

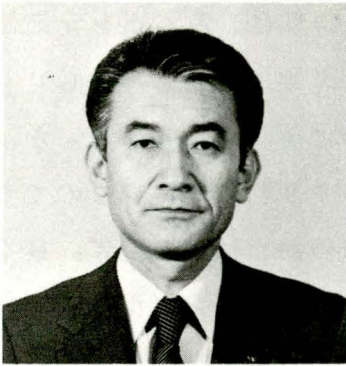
ろいろな会議でも、明るい話はさっぱり出て来ません。

或る時私は、みんなを元気付け様と、「冬来りなば春遠からじ」と云ったのです。ところがみんなは、意味があまり判らない様なのです。昔の中国の諺なはずなのに。良く考えてみますと、シンガポールには冬も春もない訳です。不景気（寒い冬）を我慢すれば、好景気（暖い春）が来るのだと説明されて、やつと意味は判つたものの、実感はあまりない様です。

シンガポールでは、どう云うのかと聞くと「雨過天晴」と云うのだそうです。「雨が過ぎれば天気は晴れる」日本でも「晴れない雨は降った事がない」と云います。諺と云うものは、何処でも通用するものではなく、その土地の事情によつて、理解出来るものなんだと思いました。冬も、台風も、地震もないシンガポールでは、悪い状況と云へば雨だけの様です。

併し日本人の私にとっては、「雨過天晴」より「冬来りなば春遠からじ」でじつと我慢する方が実感が湧きます。1983 年が本当の春であります様にと、毎日、毎日、祈っている次第です。

新年随想



理事：第3工業部会担当

NEC シンガポール・プライベート・リミテッド

社長 黒岩 勉

~~~~~

「ところで出向期間は何年位で、特にこれと言った仕事は何を考えれば良いのでしょうか。」

1980年4月のある日、シンガポール出向をほぼ公式に言い渡されて私は質問した。

勿論、それ以前にチラチラと話があって、家族とも相談し、単身赴任の覚悟もしたうえでのことだった。

海外と言うことでは、東南アジアは私にとって未踏の地ではあつたが、ヨーロッパ、アメリカには度々足を運び、出向者と起居を共にしたこともあり、あまり気にはならなかった。

「君ね！シンガポールは3Sの地の一つで出向者にとっては天国みたい

な所だよ。」知っている連中は、それぞれ無責任な説明をして励ましてくれた。しかし、そんな筈は無い、南洋一郎先生の「吠える密林」には、ボルネオやマレー半島でワニ、ゴリラ、象の群との出会いが克明に記されていた。多分、田舎に行けば、今だつてそれ等の動物に会えるかも知れないしもしかたら、腰みのだけの女性だつているかも知れない。

7月21日、SQ57でパヤ・レバー空港に降り立った。

会社生活については、幾分言葉の不自由さを我慢すれば、業績もマアマアだつたし、それ程アクセクすることもなかった。しかし、習慣の差には頭に来ることが少くなかった。遂には、その筋の人を机を叩いて呟鳴ることにまでなった。

一方、単身の生活そのものは、ある意味では悪戦苦闘、ある意味では生来の物怖じしない楽天的な性格が幸して、何でも試してやろうの方式で始まった。

食事一つを試みても、考えてみれば齢50才を数えるまで自分で探すことは無かつた。オギヤーと生まれて結婚するまでは、朝夕の食事は素よ

り、昼食についても母親の作つた辨当が着いて歩いていた。結婚してからもその製造元が家内に移されただけで、家内もよくその歴史を踏襲してくれた。ある年令に達してから他所で食事をする機会が多く成つたが、技術屋として育つたために、誰かが世話をしてくれる立場が通常であつた。自分で調達したと言え、戦時中に作つた雑炊、山に登つた時の飯盒炊さんが挙げられるにすぎない。

若い頃、密かに女性を伴つて映画、夕食と月並なことをやつた憶えもある。だが、誰かに案内されて行つたことのあるレストランに入ってメニューを見たとき、日本語で書かれた食事ですら女性のために選べないことに気が付いて周章てた思い出が残っている。

初めの内は出向者としての先輩がいろいろ教示してはくれたが、それぞれ自分の生活もあつて間もなく独立する破目になつた。

日本食であれば、秋力魚の塩焼き、納豆に漬物、御飯に味噌汁と三拍子でゆくが、ある時一人で中華料理に挑戦を試みて、三品ばかりの皿を注文した。御存知のように、又１ドル、チャーハン、ポリッジ等は別にして、

中華料理は多人数向けに設計されている。可能な限り食べてはみたが、各皿には食べたより多くの量が残っているのには参つた。西洋料理には、又別の悩みがある。スープにサラダに肉と注文は簡単だが、さてなかなか現物が現われない。周囲を見廻せば、良く喋り、良く食べと言つた風景で埋つている。一人での食事がなんと味気ないことか。

散髪にしても同じような遍歴を繰返した。印度人の床屋、中国人のそれ、美人マツサージ向きのもの、うまく通じない言葉で思つたように髪形を整えさせるのは至難の業であつた。

一寸間を置いて副社長の言葉が返つて来た。「そうだな、２年位では慣れないうちに帰って来ることになるし、２年から２年半が実習と考えれば、少くとも３年は必要だと考えておこう。仕事の方は、新しい工場の建築があるから、それをメインに考えたら良いだろう……。」

新しい工場が完成し、すべての業務がその中に納まり、本年早々には新しいプロジェクトも進み出した。社内業務、政府その他との折衝、日本側との折衝、更には観光案内、ゴ

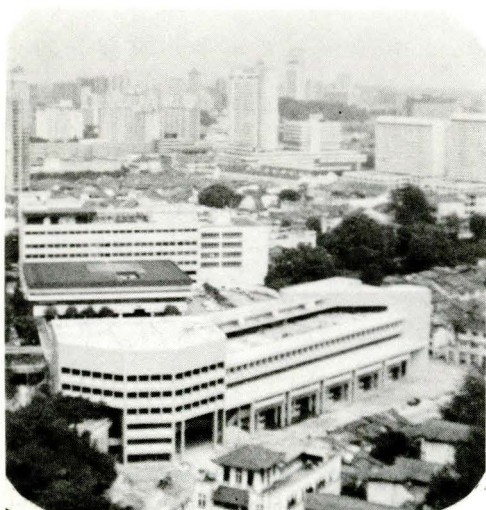


ルフにも慣れ、ジョブ・ホッピングなど物ともせずに仕事をする度胸も出来た。

アッ、と思う間に2年半が過ぎ、1983年が明けた。

不景気が徐々に世界中を覆い、苦しい道を強いられている。しかし、オイル・シヨッフ、ドル・シヨツクの時にゼロ成長を念頭になんとか切抜け現在の状況を作り出して来た。不景気とは言うまい、景気が安定したと考えよう。

実習は終つたし、パヤ・レバー空港は世界有数のチャンギイ空港に跡目を譲り、ワニはクロコダイル・ファームの檻に閉じ込められてしまっている。今年こそ大きな象の群を探すことになるだろう。



## 新年に当り

理事：化学品石油部会担当

伊藤忠商事（株）

支店長 豆原 寛

~~~~~  
会員の皆様、明けましておめでとうございます。

本年は愈々不況本番。手詰りで絶対と云える打つ手は見当りません。こう云う時こそ、明るさと大胆さが必要だと思います。

（マー جانと一緒にして貰っては困るとの声あり。）

本年の抱負

- (1)折角のシンガポール駐在ゆえ、地の利を生かして、近隣諸国—特に西南アジアを勉強したい。
- (2)ゴルフ。回数のみ多く某総務理事の如き熱心さが足りない。人の好さを克服してサング会での優勝を目指す。

年頭雑感



理事：全般担当

株式会社三菱銀行

支店長 田中 寛治

~~~~~

着任日浅く、数多の先輩諸氏を差し置いて1983年の抱負を語る程当地の事情にも詳しくないので、取敢えず着任以来感じたことを思いつくままに書き連ねて責を果したいと思う。

昨年7月赴任が決まると諸先輩友人から「シンガポールは、ゴルフの盛んな処で、あそこで上手くならないようなら君のゴルフも一生見込みはない」との忠告を受け、この20年来付き合いゴルフの域を脱し切れないでいる私も「そうかそれならこの辺でゴルフ丈でも一人前になろう」との目標を心に誓って勇躍赴任してきた次第である。さて着任後取引先

の挨拶廻りをしてまず驚いたのは挨拶早々に「先週6回やりました」とか「昨年は150回やりました」といった話が飛び出し、如何にゴルフが盛んな土地柄といっても1年は365日しかないのには一体どういうことかと度肝を抜かれた次第。

扨て、当地での筆下しは8月1日午後SICCのNEW COURSEを店内歓送迎会で廻つたのであるが、この日の暑さは着任早々の私には正に灼熱地獄で、「パターン死の行進」もかくあつたかの感を覚え、18ホールを廻るのに氣息奄奄、この間飲んだ飲物は大ジョッキに6杯。

(この記録は未だに破られていない。)  
こんな暑い処で年間150回もゴルフをやつたら死んでしまうのではないかとの感想を持った。店内の若い人が「支店長半年もしたら毛穴が開いて汗も出なくなりますよ」と慰めてくれたが到底信じられない気持ちであった。

さてそれがどうであろうか、生来無精者で記録をとつてはいないがこの半年あまりに3連ちやん2回を含め平均週2回はゴルフ場通いをしている状況で後数年もすると新任の人をつかまえては、年に100回や150回や



らないと人並ではないよ」と言い出しかねないと時折反省している昨今である。但しその割にスコアが良くないのはやはり才能がない性であろうか。

暑さと云えば炎天下の挨拶廻りで車の尾根が鉄板焼となりクーラーをフル回転させても数分間は少しも涼しくならず、加えて赤道直下丈あって燃えつく太陽が後窓から後頭部に直射して、クーラーの入った車の中で日射病になるのではないか一屋根の上で卵を割ったら間違いなくFried eggが出来るが、これで正にSunny Side upだなと駄洒落を飛ばしたくなる程暑く感じたものである。それが最近雨期に入り涼しくなった故もあるがハーフ・ラウンドの途中でキヤデイが、水を飲みたい素振りをみせてもさつさとティー台に向かう事もあり、自分乍ら適応性の早さにびつくりしている。日本人にはこれ位環境適応性があるのであるから日本企業の国際化の前途も洋々たるものだと云つたら少し甘過ぎるであろうか。

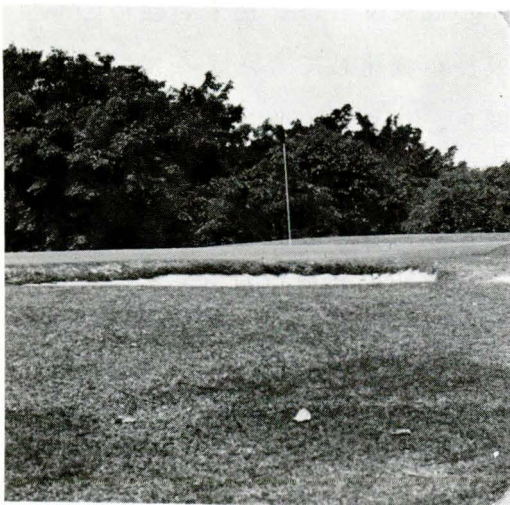
「閑話休題」最近テレビを買つたが日曜を除いて昼間は全く放映されていないのでその訳をLocal Staffに

聞いた処「殆んどの人が共稼ぎで昼テレビがあっても誰もみないから」との回答。云われてみれば確かに共稼ぎが多い。リー・クアン・ユー首相の強力な統率力の下250万の国民が明治時代の富国強兵策さながらに、脇目も振らずに働いている様子は正に壯観で我国が100年でなしとげた事を建国以来僅か17年で成し遂げたのも宜なるかなと感心する一方、ただただ働け働けでこの国の将来は一体どうなるのか一抹の不安も感ぜざるを得ない。高度成長下の我国がそうであった如く、上昇気流の中にあっては「働く事が楽しみ且つ人生の目標」と信じて疑わぬのも判らぬではないが、何時迄も当国丈が抜群の成長力を維持出来ぬことは歴史の証明する処であるし、現在の我国が米国、EC諸国と貿易摩擦を起している如く、ASEAN諸国の中で余り突出し過ぎると週辺諸国に無用の恐怖感を与え、却つて当国の安全に良からぬ事が起きるのではないかといつたら言い過ぎであろうか。賢明な当局の事だから、その辺は充分弁えているものとは思ふが……

それはそれとして、当地でビジネスをする立場から云えば当国の発展

は正に喜ぶべき事で私の職業からい  
えばアジア・ダラー市場が1,000億  
ドルの大台を超え、これを反映して  
外銀の進出ラッシュが続き毎週どこ  
かでOpening Partyが華かに催  
されているのは誠に有難い次第と云  
わねばなるまい。昨年来不況の深刻  
さは増しているが、この金融マーケ  
ットの活況に加え、地下鉄工事の着  
工、チャンギ空港第2期工事の続行  
と明かるい話題も多くまだまだこの  
国の若さと成長余力には素晴らしいも  
のがあると確信すると共に今年こそ  
大いに頑張り度いと念願する次第で  
ある。

1983年年頭にあたり、会員皆様  
のご健康と益々のご発展を切にお祈  
り申しあげる。



## 人生百年

監事

シンガポール・ジャパン・マーチャ  
ント・バンク

取締役総支配人 森 茂二郎

~~~~~  
いつか五十の坂をこして今また新
しい年を迎えるとなれば、何がしか
の感懐なかるべからずというもので
しよう。「四十ニシテ惑ワズ、五十
ニシテ身順フ」とか。昔の人は、す
でに枯淡の境地にいたとみえますの
に、「汝五十にふさわしい顔をもつ
ておるか」と、我と我身を省みれば
何ともはや、忸怩たるものがありま
す。

戦時下、中学校に入学した時、国
語の先生が黒板に大きく「稚心を去
れ」と書かれたのを、昨日のことの
ように、思い出しますが、あれから、
努力してきたとは思うものの、いつ
までも稚心の塊みたいな已を反省す
ることしきりです。しかし、考えて
みると、現代における五十とは何か
いかにあるべきか、その内なる精神
の在り方ないしその成長の構造につ
いては、改めて問うてみる必要もあ

るようです。

先日、商工会議所のセミナーで何った話ですが、人類が何らかの形で鉄を使用し始めてから、何と1500年になるのだそうで、これを使用量の累計でみると、30年前頃が、それまでとそれ以降との、恰度、量的な中間点になるのだそうです。もつと現代的なコンピューターの生産量をとつてみると、1950年代から現在に至る中間点はといえば、ほんの、2、3年前あたりなのだそうです。雑駁にこれを尺度とするならば、鉄の場合は、14,970年と現代の30年が等価であり、コンピューターの例でいえば、今の1年は、それ以前の10年に匹敵するということになりました。つまり、尺度の如何によつては、たとえば、昔の一年分を、今は一日で生きているということになります。現代を生きていることの気ぜわしさ、あるいは、適応する精神の緊張度といったものが、並々ならぬことを物語るとでもいえますまいか。

ところが、奇妙なことに、人間の平均寿命は、年々、更新されてきています。すぐれて、栄養の進歩によるものでしょう。友達の医者に言わせると「人間の細胞は、百パーセン

トの栄養液で培養すれば、永久に生き続けて不滅である」とのことです。幸か、不幸か、これは、今のところ、理論上のことで、百パーセントの栄養液なるものが、出来るわけではないのですから、二百や、三百まで、生きると慮る必要はないでしょうが、普通に、百まで生きるということは、好むと好まざるとにかかわらず、十分、考えておく必要があるように思われます。現に、百才以上の方々も、世界各地に、少からず、おられるし「五十、六十、鼻たれ小僧」とのたまう大物も、わが政財界には、ゴマンとおり、しかるべきところにいつづけ、上記仮説を実証しつつあるかの如き観もあります。

どうも、栄養が進むにつれて、精神の成長度合は、恰も、経済の高度成長が減速してきたように、その速度を、スローダウンしているのではないかと思います。そしてそれは、肉体と精神とのバランスを維持させるための、天の配剤であるようにさえ、思えるのです。現代の私共は、心の内なる発展の度合とか、老成の度合とかについては、昔の一年を、二年かけて、歩んでいくようになってたのではないのでしょうか。

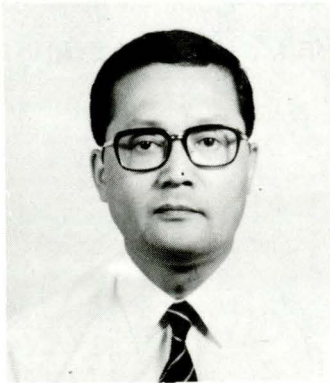
だとすれば、「人生百年」のペースを、むしろ、意識的かつ積極的に、身につけていく、取込んでいく、というのが、生活の知恵というものではありませんまいか。あまり私にはなじめないのですが、近頃、新聞、雑誌等で、よくみかける「熟年」という言葉も、あるいは、同じような発想によるのかも知れません。

「人生百年」の五十才は、昔の廿五才にすぎません。冒頭に戻つて、実質25才が、「身順ワザル」故を以て忸怩たるいわれはないのです。青春というものが、重い荷を負つて、急坂をかけ登るといつた類のものであるとすれば、もはや、私共には、青春はないといわざるをえないでしょう。しかし乍ら、瑞しい豊かな感受性とか、蓄積した知識、経験を活かした、柔軟で的確な判断力とか、非なるものを排し、真なるもの、善なるものを識別する眼力とか、こういった諸々の能力を備え、それを発揮することが、真の意味での青春なのだと呼ぶとすれば、今、私共こそが、青春のさ中に、いるのだともいえましょう。枯れ急ぐべき時代ではありません。

1983年を、有意義に、より充実して、過したいものと思つております。今年も、よろしくお願い申し上げます。



迎頭赶上



監 事

シンガポール・野村・マーチャント
・バンク

社長 福田 俊介

~~~~~  
昨年(1977)の4月、丁度私がシンガポールへ赴任する1ヶ月前のことであるが通産大臣御夫妻をはじめとするシンガポールの政府高官の方々と東京で夕食を共にする機会があつた。一行の中の〇氏は、お付きの方の話によると、著名な書家でもあると聞き早速一筆お願いしたところ、その料亭の女将さんの用意した色紙に迷うことなく「迎頭赶上」としたため「ミスターフクダシンガポール転勤お日出度う。頑張つて下さい」と言われた。そしてその色紙を記念に載いた訳だが、初めて見かける4字成句であり、突差に意味が分らなかつ

たのでそれを尋ねたところ「追いつけ追い越せ」の意味であるとの事であつた。葉桜の美しくなり始めた庭を眺めながらなごやかな春宵の一刻であつたがまじめなシンガポール人との話題はいつのまにか、堅い両国の経済へと移り、シンガポール経済については次の様な主旨の話をうかがつた。

1977年から81年の最近5年間の経済成長率(実質GDP)は年平均9.2%と極めて好調に推移し第2次石油危機も難なく乗り切つた。その要因は、(1)工業化の進展と共に工業構造の高度化が進んだこと(2)政治が安定していたこと(3)投資導入が活発であつたこと(4)物価が安定していたこと(5)賃金コストの上昇率が相対的に低かつたこと(6)国内貯蓄率が高いこと(7)政策の立案運営に優れていたこと(8)国民が相対的に勤勉であること等々であつた。

81年の経済に限ると世界景気低迷の中で輸出は僅かに8%増に過ぎなかつたものの建設金融サービスの高い伸びに支えられる一方、輸入物価が安定していたために実質GDPは前年比9.9%増とアセアン諸国の中で最も高い伸びを示した。然し乍ら

82年に入り世界的な不況の煽を受けさすがのシンガポールも建設、金融、サービス部門を除き、経済活動は大きく落ち込み始めている。更にはマレーシア、インドネシアとは異り天然資源に全く恵れないシンガポールにとって、過去の様に10%近い成長を続けるのは無理としても、7~8%の成長を実現する為には(1)産業の高度化、多様化を計る(2)工作機械、医療機器などの技術・資本集約的高付加価値産業に特化する(3)金融、建設コンサルタントなどのサービス、情報産業を育成する方針である。この様な課題を実現するに際して周辺産業をどの様に育成するか、労働能力をいかに高めるかなどの問題点がある。以上の様な熱心で、真剣な話を伺い、政府の国造りに対する真摯な姿勢に私はえらく感銘を受けたのであつた。事実昨年(1990年)のナショナルデーで、リー首相は『今年はシンガポールのGDP成長率を5~7%と政府年初の予測8~10%を可成り引き下げた。70~80年代に高度成長を誇つて来た我国にとって、5~7%の経済成長は74~75年以来最も厳しい状況にある。若しアメリカの経済が予測より悪ければシ

ンガポールの成長は5%以下になることもあり得る。シンガポールは世界的リセツションにあと1~2年は耐えられるが、それ以上は無理であろう』と述べ国民に危機意識を植え付けようとしている。

私の前任地であるインドネシアから眺めていた頃のシンガポールとは可成りの状況の変化を感じたが何と言つても過去の実績が示す通りシンガポール政府は有能な政策執行者であるところから、すでに精密産業を育成し、今後必要となる周辺産業の育成も実現するであろうと思われる。又一部の労働集約型部品産業は、インドネシアやマレーシアに進出しており、今後これらの地域をシンガポールの部品供給基地として利用してゆくことになるだろう。

当国史上最大のプロジェクトと言われるMRT計画も順調に進み本年中には工事を開始する運びとなり、これは国民経済の大きな支えとなるであろうし、このしたたかな政府が続く限り結局、中期的にみた経済成長の目途として、私見では7~8%の成長は可能だと考える。

扨て、冒頭の「迎頭赶上」に戻るが当時私は未だシンガポールの実情に



疎くただ仕事に於ては、競争が激しく当地での金融業界の小さな一角を占めているに過ぎない当社に対する励ましの言葉と受けとつていたが、どうもこれは私の勘違いではなかつたろうか。

アジアダラーマーケットにおいて、又は身近なケースとしては地下鉄工事等における香港、又はハイテクノロジーの日本を意識して、C氏は為政者の一人として極く自然に「迎頭赶上」という成句が頭に浮んだのではなかつたのかと今にして、思われるのである。いづれにしても、色紙と言えば「和」しか思いつかない政治家とでは迫力が大分違うようだ。

## ASEAN への期待



顧 問

日商岩井株式会社

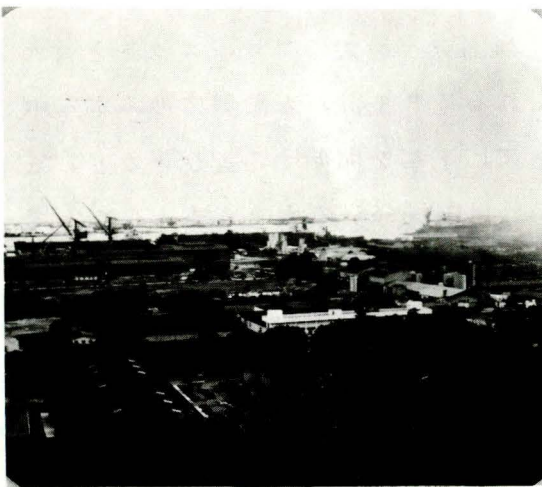
取締役

東南アジア総支配人 末包 盛之

世界の二大地域社会である ASEAN と、欧州共同体（EC）との歴史を顧み、ASEAN 強化への期待を述べ度いと思う。

ASEAN は 1967 年発足後 15 年有余を経て今日に至っているが、その協調が顕著になつたのは 1976 年以降であろう。特惠関税制度の拡充共同工業プロジェクトの遂行、産業補完計画の推進等、協力体制を漸次整えつつある。

EC は 1953 年設立の欧州石炭、鉄鋼共同体（ECSC）、1958 年設置の欧州経済共同体（EEC）、欧州



原子力共同体 (EURATOM) が 1967 年統合されたものであり、又加盟国も当初の 6ヶ国より現在の 10ヶ国になつてゐる。此の間、1968 年関税同盟、1979 年通貨同盟、更に政治同盟等、統合の強化を推し進めてゐる。

ASEAN は、発足時は政治面を、EC は経済面を重視、他方前者は協力体制の充実を指向した開発途上国集団であり、後者は共同体としての一体化を目標とした先進国集団である。発足後両者共に長所、短所を育成是正しつつ結束を求めて前進してゐるのが現実の姿であろう。

EC の今日の姿は 30 年の歴史の賜物であり、ASEAN は 15 年を経過したに過ぎない。ASEAN の地域社会発展には、加盟 5ヶ国の全体的協力が特に必要であるが、協調の速度は加速度的に速まり、1980 年代には必ずや EC に劣らぬ協力体として世界の代表的地域集団となる事を期待するものである。

ASEAN に於ける SINGAPORE の重要性は、更めて述べる迄もないが、同地域の中核的存在である SINGAPORE の発展向上を心より念ずる次第である。

## 新春雑感



顧問

住友商事 (株)

東南アジア支配人 福森 鋭一

~~~~~

毎年暮れになると来る年への期待抱負や、経済予測等が紙上や雑誌に掲載されるが概ね的外れが多いことが常識と云つては失礼かも知れないがこと程左様に先見性と簡単に云つても仲々先を読むことの難かしいのが世の常であろう。さて海外に駐在する者にとって昨年の身近な News は日本の教科書問題ではなかつたかと思う。ことの真相をも知らず自己流の批判は慎しむべきかとも思いますが当事国たる中国及び韓国はもとより第 2 次大戦の惨禍を被つた国々就中東南アジア諸国の人々は黙して語らずその深層心理は測り知れませ

ん。然し、戦後アジアの一員として
嘗々として築き上げられた日本の外
交努力は再び30年後戻りした観が
あると中島前大使が私にその印象を
洩らされた。当地に駐在するもの
として当然の感慨ではないかと思
います又日本人として誰もがそう思
へたのではないかと……

経済人として海外で活躍した人々
は10年前にはエコノミック・アニ
マルと云われ世界の批判を買った
こと善きにつけ悪きにつけ矢張り
日本人として些々考へさせられる
ところではないかと思ひます。

昨年直木賞受賞作品深田祐介著
炎熱商人を読まれた人も多いかと思
いますがその“あとがき”にこれは
昭和46年秋マニラで起つた日本人
の受難事件を中心に戦中戦後のフ
ィリッピンに生きた日本人を描こう
とした小説である。……とこれは紛
れもなく当社マニラ事務所長田所
長の殉職事件がモデルとなつてい
る。洵に身につきされる思い。その
一節にアダム・スミスの国富論を
かかげその啓蒙思想のアジアに於
ける具現者として、英国東印度会
社社員トーマス・スタンフォード・
ラッフルズ当地シンガポールの建
設者として餘りにも

有名ですが“信義と友情を高めな
いような商売はすべきでない”イ
ギリスの名をしてアジア諸国民の
あいだに荒廃を招く嵐として記憶
せしむるな。圧迫の冬枯れどきか
ら生命を蘇らせる春の微風として
記憶せしめよと云う意味のラッ
フルズの言葉はその後の歴史英
国の植民地遣制としてシンガポ
ールの隅々に尚温存されている
と云つても過言ではない。

現在シンガポールの国造りは日
本に学べ運動を展開しているが右
に左にと揺れている。当地駐在
の日本企業の一員として過去から
現在に更に来々に向つて一つの区
切りとしての新春を迎へ、駐在員
としての在り方を反省すると共に
新たな出発点として頑張らねば
ならない。幸い日星両国のナシ
ョナルプロジェクトであるシン
ガポール石油化学計画が完成さ
れ愈々操業が開始されんとしてい
る年を迎へ果して本年はどんな
年になるのでしょうか。……

逆境の中でのパワー



顧問

ペトロケミカル・コーポレーション
・オブ・シンガポール

社長 小見山 大輔

明けましておめでとうございます。

新年を迎えるに当たり、まずシンガポール商工会議所のメンバー各社御一同のますますの御発展、御繁栄を心からお慶び申し上げます。この国のお正月は、お国柄から各人種によつて御祝のタイミングが異つておりますが、我々日本人にとつてはやはり、この一月一日という年の始まりが何といつても心を新にして一年の計をはかる大きな節目でありますのでお互いに心豊かに、明るく、楽しく、そして新たなる決意を秘めてこの新年を寿ぎたいと思うのであります。

しかし乍ら、それと裏腹に現実には極めて厳しいということでありまして、それだけに今年ほど我々にとつて確固たる信念と不拔の忍耐力、そして適切な判断の必要な時はないと思うのであります。

昨年は世界的に不況に明け暮れた苦しい年月でありました。特に私共の推進している石油化学はその中でも非常に厳しい試練に直面した年でありました。新年になつたからといつてそれが改善されるというわけでもなく、一層不透明な先行きの中で多くの対策を模索し推進して行かなければなりません。その意味で本年は私共にとつてまことに重要な機であり、一同、百尺竿頭一步を進める決意でこの新春を迎えたのであります。

顧みますと、このプロジェクトは最初に計画されから既に十年を経過しております。

この間二度のオイルショックを含めて激しい世界経済の変動があり一時はプロジェクトの前途が危ぶまれたのであります。しかしシンガポール政府の終始一貫変らぬ熱意、日本側政府と住友化学を中心とした民間企業の協力により幾多の迂余曲折は

ありましたが、5年前に会社が設立され、更に三年前から本格的建設にかかり、いよいよ本年中頃には操業を開始しうる運びとなりましたことは我共の大きな喜びとする所であります。

他面、二年半に及ぶ世界的な不況は石油化学に深刻な打撃を与え、石油化学製品の需要は著しく低下し、日本、ヨーロッパ共、石油化学会社はなべて60パーセント以下の操業率であえいでおります。かてて加えてカナダ、北米の安い天然ガスを原料にした石油化学製品、更には発展途上国の換金安売品が東南アジアや日本市場に流れ込み、著しい製品価格の低落、極度の市場混乱をまき起しております。日本ではこのような情勢を背景にして官民一体となつて真剣に苦境の打開策を検討し、昨年12月には産構審化学工業部会の答申が行われるにいたりました。従来とかくまとまりの悪かつた日本の石油化学業界もここに来て「サイは投げられた」として全力をあげて過剰設備の廃棄、製造の受委託、共同販売を骨子とする業界の集約、再編成の体制整備に今後の浮沈をかけて取り組んでおります。恐らく今回の機

会を逃せば永久に生きる途を絶たれるのではないかといても過言ではないと思います。

ヨーロッパの石油化学業界でも日本と同様な企業、設備の統廃合を含めた新体制作りが進行しているのであります。

このような世界的に深刻な情勢の中で我々の石油化学は操業を開始するわけで、それには並々ならぬ努力が必要とされるのであります。申すまでもなく我々の石油化学は目下進行中の日本の新体制作りと無関係ではありません。といつてもその中に組み込んでもらうわけには行きません。従つていろいろと模索しつつ我々独自の対策を樹立して行かなければなりません。安価な原料の入手を含めた製造コストの引下げ、付加価値の高い製品の導入開発、販路の確立等各面にわたつて種々の基本的対策を考えて行かなければなりません。

一方、我々にとつて一つ大切なことはローカリゼーションプログラムの推進であります。この計画が日・シ、両国共同のナショナルプロジェクトである以上、日本側として一日も早くその技術をシンガポール側に伝え、本プロジェクトがシンガポー

ル国の石油化学として発展するよう位置づけすることが我々の責務であるからであります。

安全なスタートのため操業の初期には経験豊かな日本人が指導しますが、なるべく早くシンガポリアンに仕事を引継げるようにするためには生きた教育に努力しなければなりません。これにはシンガポリアンとの心のつながりが根底になければならないと思いますので、この点について当地に長い御経験をもつ会議所メンバーの方々の貴重な御意見を承わることが出来れば非常に幸いと考えております。

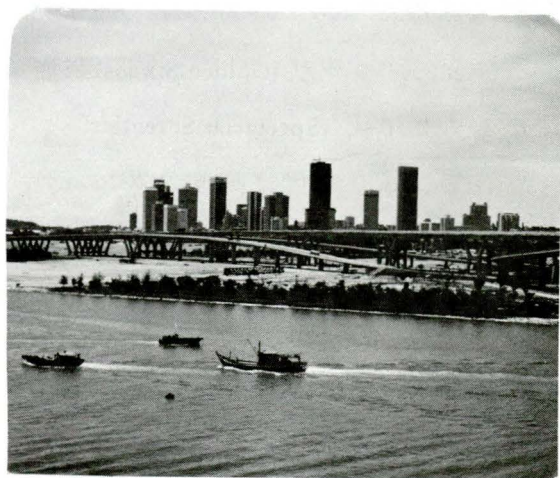
さて、このような諸対策を推進して行つても客観状況はまことに厳しく、自立独行のためには市況の改善と、両国政府を始めとする本プロジェクト関係者の理解、協力と支援が是非共、必要なのであります。

本年の世界経済は多少の改善はあるかもしれませんが、基本的には昨年の流れが相当期間長く尾を引くであろうと見込まれております。それだけに我々の苦難の道はけわしいと考えられます。

しかし事業は容易ならざる逆境を乗り越えてこそはじめて高貴なもの

たりうると思うのであります。「逆境の中でつくられるパワー」これこそ私共の本年の事業推進の糧となると信じ、本年の諸問題に対処して行きたいと思っております。

皆様の暖かい御支援、御協力をお願い申し上げます。



1983年も一層のご協力を



オブザーバー
日本貿易振興会
所長 澤池 忍

~~~~~

黄金の60年代 (Golden Sixties) 華麗なる70年代 (Spectaclar Seventies) に続いて、80年代は陰うつ (Gloomy) な時代だと云われている。確かに、80年代に入つて突入した世界的な景気停滞から欧米各国をはじめ、どの国も未だ抜け出すことが出来ず、むしろ各地で益々 Gloomy な現象が現れ出している最今である。この調子で行けば、そろそろ好転する頃と期待が持たれているものの、1983年は相変らず厳しい年になるのではなかろうか。

自由貿易を標榜する GATT 閣僚会議で、先進諸国を中心に台頭しつつ

ある保護主義に歯どめをかけようとした決議も、すんなり行かなくなつた程、各国の経済事情はさし迫つて来ているようだ。これが為か、対日貿易摩擦が、周知のとおり一段と強くなつて来っており、各国からのわが国に対し市場開放を迫る声が、日増しに高くなつて来ている。

1981年12月、わが国は、経済対策閣僚会議で市場開放第一弾を、続いて1982年5月に第二弾を発表し、関税にかかわる東京ラウンドの合意の一率2年分前倒しで実施することを発表、輸入検査手続の改善、市場開放苦情処理推進本部 (O.T.O) の設置、流通機構ビジネス慣行の改善 (ビジネス・コンサルタント制度) など種々の手を打つて来ているものの、欧米各国からはこれで十分とは認められず、第三弾の検討にまで追い込まれている。

しかし、一方、アジア諸国においては、まだ比較的高い成長率を保っているためか、1974年はじめのような、対日輸出拡大を求めた貿易摩擦や、日本人や進出企業の行動まで非難した反日運動が生じていないのはアジアに駐在する者のみならず、わが国にとつて喜ばしい事であり、ま

た大きな救いでもあろう。

かつて、反日運動の激しかった頃、バンコクに駐在し、ジエトロの立場から、種々弁明に勉め、タイ製品の対日輸出促進のための事業を次々と展開し、また、正しい対日認識をしてもらうためのPR活動をした。当時の日本商工会議所をはじめ、日系企業各社も積極的に現地社会への貢献に種々努力はされたが、当時は、何をどう説明しても正しく理解してもらえず、屈折した認識しか残らない状況であつた。

その後、インドシナ半島の状況変化などがあつたとは云え、ASEAN 各国の経済開発が、わが国をはじめ先進諸外国の協力で順調に進み、年々、貿易・投資の拡大がなされる一方、各方面での交流が活発化するにつれて、これらの声が消えて来たことは喜ばしい限りである。

しかし、最近の世界的不況の影響が、アジア各国にも及びつつある今日、一枚岩としての強固さを誇る

ASEAN の結束も、経済的連けいの中に若干不協和者を耳にする様になつて来ている。これからは各国の開発の進捗状況や、景気動向の如何では、欧米の対日摩擦に同調する危険

はないと断言出来ないのではなからうか。

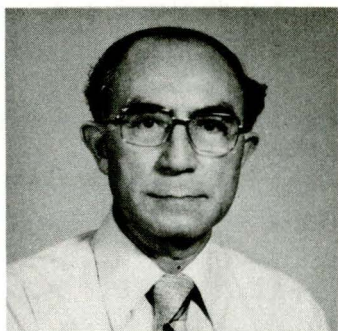
このような状況をふまえ、ジエトロでは、世界各地の施設において、正しい対日認識のためのPRや、前記のO.T.Oをはじめ、対日輸出促進のためのビジネス・コンサルタント制度を実施したりしており、これに加えて、当センターでは、技術移転のためのテクニカル・コンサテイング、スキーム等、日系企業の皆様方のご協力のもとに、現地経済・現地企業への協力をおしすすめて来ている。

わが国とアジアの関係は、最近では経済、文化等各方面を通じて、幅広い交流が活発に行われており、特にわが国経済界の「アジアの見なおし」が積極的にすすめられている今日、良好な関係保持のための環境づくりに1983年も微力ながら努力を続けたいと考えている。

日系企業の皆様方の一層のご協力をお願いいたします。

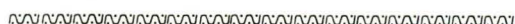


# JOEAの本年の活動



オブザーバー

(社) 日本在外企業協会新加坡相談所  
所長 辻 彰一



当地に於ける日本在外企業協会 (Japan Overseas Enterprises Association) の業務内容については、御承知の方も少なくないが、月報の紙面をお借りする機会が与えられたので、ここに概要の説明をさせて頂き、各社各位が、協会の活動を一層利用して頂くことと、協会に対する御協力を、お願いする次第である。

扱て、活動の基本方針としては、在星日系企業の各社が、当地の経済・社会に円滑に融合し、発展されることを側面的に協力することに置き、一般の相談業務の外に、次の5つの仕事を活動の柱としている。

## 1. 企業訪問

月間5社を目標に、企業を訪問させて頂き、各社が事業を推進される上で、問題事項はないか等聴取し、必要に応じて可能な対策を検討実施すること。

## 2. ハンドブックの作成

進出会員企業の方々の便益に供するため、引続き次の3種類のハンドブックを適時更新し発行すること。

日外協・ハンドブッカー生活編—

日外協・ハンドブッカー労働編—

シンガポール会計・税務ガイド

## 3. セミナー・懇談会の開催

月1回を目標に、種々のテーマでセミナーを開催し、当地日系企業の日本人各位の事業活動の便に努めること。

なおセミナーの外に、懇談会を開催することもあるが、これ等開催に関し、アイデア、御意見などがあり、御連絡頂ければ幸甚である。

## 4. 日本人医師による診療所の開設

シンガポール日本人会並びに日本にある海外邦人医療促進協議会に協力して、当初からの基本的諒解に沿い、日本人会館内に、日本人医師による診療所開設に協力すること。

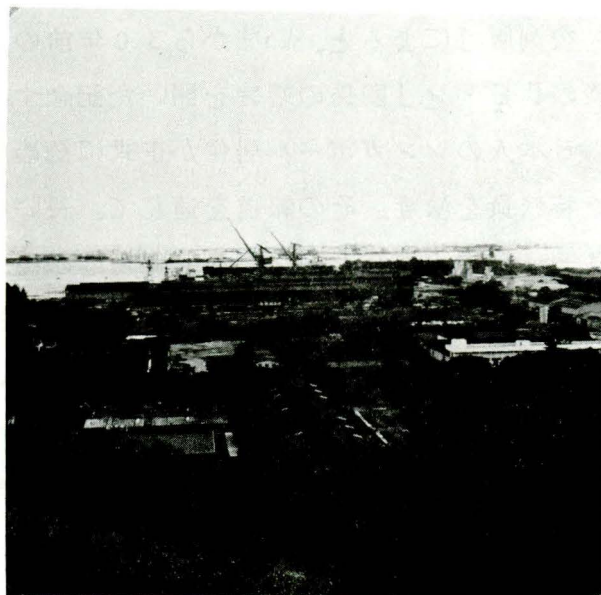
## 5. 日系企業の労務者教育に協力

当地日系企業、特に生産会社に働く  
Singaporian の生産活動に関する知識  
のレベルアップに役立つため、産業  
能率大学の生産士コース通信教育の  
連絡窓口を引続き担当すること。

蛇足であるが、本通信教育は、非  
常に好評で、回を重ねるに従い参加  
企業数、人員が増加しており、82  
年11月からの第3回目のコースは、  
当国の53社684名の外、マレー  
シアでも21社157名が受講して  
いる。

以上が当地に於ける活動の概要で  
あるが、日本にある本部は、次の事  
業を中心に活潑に活動している。

1. 政府関係諸機関に対し、わが国  
企業の海外活動をめぐる政策改善  
のための建議、要望
2. 受け入れ国との協調実態調査、  
投資環境調査および特定テーマ別  
による調査、研究
3. 海外情報に関する講演会、事例  
研究会、研修などの啓蒙活動と海  
外派遣者対象の研修セミナーの開  
催
4. 会員企業への最新情報の提供と  
わが国企業の海外活動について広  
く一般に理解を求める広報活動
5. 海外活動をめぐる諸問題解決の  
ための相談活動
6. 政府・民間諸機関との連携活動  
等である。





1983—73—63—53

## 10年単位で見た日・シ関係

日本経済新聞アジア総局

斉藤 志郎

年頭に当たっての回顧と展望は、新聞、情報機関のお家芸だが、政治、経済情勢の予測は天気予報より難かしい。しかし、天気予報の気象観測も、明日の天気より四季の移り変わる長期予測の方がずっと確実性がある。四季のない東南アジア地域でも、モンスーンの季節風は、春と秋に規則正しく入れ替る。

「歴史は繰り返えす」といわれる人間社会の現象も、10年前、20年前を振りかえり、5年先、10年先を見る方が、明日を占うよりもやさしいに違いない。そこで、日本とシンガポールの関係も、10年単位で過去を振りかえって見ると、案外面白い「定時観測図」が浮び上がってくる。

### 対日批判を乗り越えた30年

「南十字星・復刻版」によると、いまから30年前の1953年という年は、戦後の「日・シ」関係の端緒を開いた記念すべき年であった。この年、日本人のシンガポール居住が正式に認められ、報道機関も相次いで特派員を派遣、その報道を通じて、長い間忘れられていた南国の島——日本と南洋をつなぐ仲継貿易港の姿が甦った。日本の銀行の進出も認められ、同年3月には東京銀行が駐在員を送った。日本企業進出の足がかりをつける出来事であった。その第一陣として100人を越す沈船解体作業員の活躍が記録されている。

それから10年後の1963年は前年から持ち上った「白骨事件」

「血債問題」への対応に追われる在留邦人にとっては、かつてない苦難の年であった。厳しい反日感情の中で、東銀現金輸送車がピストル・ギャングに襲われるなど、邦人社会は不安に包まれていた。日本人だけのゴルフ・コンペに対する現地の反目を招かぬよう、自粛決議が各懇親会でなされたのもこの頃である。

さらに10年後の1973年にも、対日世論を硬化させるような深刻な問題が発生した。世に言う「6 商社事件」である。これは、シンガポールの6つの商業団体が日本商社の現地活動に、激しい非難の声をあげた事件で、彼らがシンガポール政府と上部団体である中華総商会に送った非難決議は「日本商社は当初、ローカルの輸入商を代理店にして市場を開拓させておきながら、やがて代理店を解約して直売制にしたりして、われわれの市場を奪っている」と述べていた。この事件は在星日本商工会議所の自粛決議で、現地側の不満を柔らげ、事なきをえた。この頃すでにシンガポール進出の日本企業は127社(商工会議所メンバー)、合併会社も150社に達していた。

そして10年後の今日、戦後初めて居住を認められてから30年後の今日、企業を中心とする日本人社会は、いくつかの試練を乗り越えてシンガポールに広く深く根をおろすに至った。

#### 輸入代替から輸出志向へ

ところで、この30年シンガポールの国情、特に日本と関係の深い経済発展——工業化の歩みはどんな変遷を辿ってきたのか。

1953年当時はまだ英直轄植民地の時代だが、この年に任命されたG・ランデル委員会のもとで、自治・独立に向けての新憲法起草の作業が始まった。また同年経済再建のための「開発基金」が創設されたが、開発支出は年次予算の歳入超過分を割り当てるものにならず、政府による長期の開発計画が緒につくまでには、なお10年

の歳月を要した。

シンガポール工業化の推進母体である EDB( 経済発展局 ) が設置されたのは 1961 年 8 月のことである。海外からの製造工業誘致をめざして活動を開始した EDB は 62 年に東京とシドニーに連絡事務所を開設したのを皮切りに、64 年までに日本、タイ、オーストラリア、ハワイ、イギリス、インド、香港、アメリカに代表部をつくり、海外ネットワークの基礎を築いた。

“ EDB の手腕家たち ” が、1960 年代初から 70 年代にかけて、企業誘致を計画した業種の主なものを列記すると、次のようになる。

1964 年……紙・パルプ、アルミ製錬、製薬、電気製品。

1965 年……深海漁業、木材、ソルベント。

1966 年……一部石油化学、野菜油、森林開発、繊維、ホテル、海運。

1967 年……金属工業、エンジニアリング。

1968 年……鉄鋼、造船、電子、玩具。

ジュロン工業地帯を中心とするシンガポールのプロジェクト開発は 60 年代を通じて、雇用問題の解決と輸入代替、そして製鉄、造船などいわゆるプレステージ産業の確立を企図するものであった。この間、マレーシアからの分離独立、英軍撤退といった厳しい政治環境にあったにもかかわらず、困難な輸入代替産業の育成期を比較的短年月で乗り切り、雇用問題も、1960 年の 13.5% という高い失業率から、10 年後の 1971 年には 4.8%、さらに 1973 年には 4.5% まで低下して、経済安定の最大の課題を解決した。そして、この時期から、狭隘な国内市場のカラを突き破る輸出志向産業への転換が始まった。



### 第三の波— “輸出代替” の試練

日本企業のシンガポール進出が急増し始めた1973年以降、現在までの10年間はまさに輸出志向工業化の黄金時代であった。この転換が始まってわずか3年後の1976年には、製造工業生産の59%が直接輸出に向けられ、ASEAN地域最高の実績を記録している。

だが、さしもの黄金時代も終焉を告げ、世界不況、先進国の貿易保護主義の台頭とともに、輸出志向からいわば“輸出代替”への転換を迫られているのが現状である。輸出代替工業化の概念は必ずしも定着しているとはいえないが、経営および技術ノウハウの向上により企業の体質改善と自活力の強化を図ることである。すでに79年から開始された労働集約から資本集約・知識集約産業への転換と生産性向上運動を中心とする政府の経済再構築政策は先進国依存の輸出志向産業構造からの部分的脱脚を目指す戦略といってよいだろう。しかし、企業の自活力養成といっても、国内市場の制約から、海外市場に依存せざるをえず、高度技術・資本集約産業の展開には依然として外資および技術の導入は欠かせない。その意味で、輸出代替工業化の道は輸出志向工業化に比べ、はるかに困難なプロセスである。

シンガポールが来るべき「第三の波」を乗り切れるかどうかは、次の10年の課題であろう。経済成長率の鈍化につれて、国民生活の不満のハケ口は、日本を含む先進工業国の保護主義に対する批判に向けられるかもしれない。製造工業に関するかぎり75%を外資系多国籍企業に依存するシンガポールのいわば“対外依存フラストレーション”が内攻することは避けられない。

したがって、日本進出企業にとって、次の5年、10年の課題は技術移転、工場管理から経営権の移転、株式公開などを通じてのローカリゼーション（現地化）をいかに円滑に進めるかであろう。

## “JUGAS(元在日大学卒業生協会)メンバー 招待の夕べ”を開催

### シンガポール日本商工会議所

当地シンガポールには、日本の大学に留学した経験のある者約200名から構成される The Japanese Universities Graduates Association of Singapore (JUGAS)がある。同協会はメンバー間の相互交流と日星関係の緊密化を目的として各種事業を積極的に展開しており、本所とも共通の目的を有している。また、JUGASメンバーのうち約60名が日系企業で勤務しているのをはじめ、各界で幅広い活躍を行っている。

こうしたことから、昨年JUGASメンバー全員を招待しての懇親パーティを初めて開催したが、今年度は12月22日(水)マンダリン・ホテルにおいて第2回目の懇親パーティを開催した。今回は、とくに在シンガポール日本大使館より深田特命全権大使、登公使はじめ関係担当官のご臨席を得、また、在星日系報道関係者の方々も交えて、JUGASメンバー、本所理事会メンバー、顧問、正副部長・委員長等約140名がなごやかに懇談した。

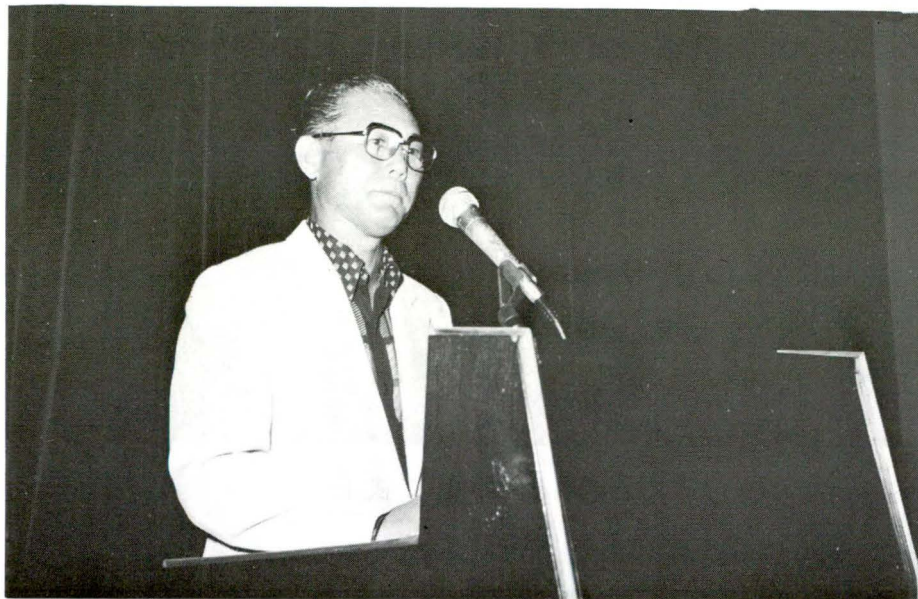
冒頭水戸会頭は、「JUGASとシンガポール日本商工会議所の相互交流強化と具体的な事業の展開について会議所としてバックアップし、日星両国関係の一層の発展に寄与したい」旨挨拶を行った。これに対してJUGASのFAN会長は、「JUGASメンバーとしても、日本の大学で学んだ経験を充分活かし、今後とも日星関係の緊密化に取り組みたい」旨応答された。さらに、当日ご多忙にも拘らずと



くにご参加頂いた深田大使からは「こうした交流は意義深いものであり、大使館としても大いに推進したい」旨のご挨拶を頂戴した。

以下は、当日における写真による歓談風景である。

#### JUGAS メンバーとの懇談



水戸会頭挨拶



FAN 会長挨拶





深田大使ご挨拶



約200名の参加者





歓談のーコマ



歓談風景

# 理事会の動き

第161回1982年12月14日(火) 午後12時30分～

議 事：

1. 前回議事録承認

異議なく承認された。

2. 審 議 事 項

(1) MEDISAVE SCHEME について

現在 MINISTRY OF HEALTH が検討している MEDISAVE SCHEME に関する本所の意見(別掲の通り)を取りまとめた。

(2) 広報担当理事の選任

広報担当理事に吉村氏(日本郵船)が選任された。

(3) SICC との懇親会

本所と S'PORE INTERNATIONAL CHAMBER OF COMMERCE との懇親会を1983年1月15日(土)に開催することが決定された。

(4) JUGAS メンバー との懇談会

本所と JUGAS(在日大学卒業生協会)メンバーとの懇談会を12月22日(水)に開催することになった。



(5) JUGAS メンバーの日本派遣

JUGAS メンバーの日本派遣について審議した結果、実現の方向で対処するが、具体的な方法を細部にわたり検討することになった。

(6) 後任事務局長の受け入れ

大阪商工会議所より後任事務局長として推薦のあった西田 賢治氏を受け入れることが承認された。

(7) 事務局職員の昇給措置等

事務局職員 3 名の今年度における昇給措置が承認された。

3. 報 告 事 項

(1) 部会、委員会、懇談会等開催報告が行れた。

下記の通り、部会、委員会、懇談会等の開催報告が行れた。

① 部 会

- |                 |        |
|-----------------|--------|
| ◎ 11 月 23 日 (火) | 第三工業部会 |
| ◎ 11 月 24 日 (水) | 第一工業部会 |
| ◎ 12 月 10 日 (金) | 建設部会   |

② 委 員 会

- |                 |          |
|-----------------|----------|
| ◎ 11 月 11 日 (木) | 広報委員会    |
| ◎ 11 月 18 日 (木) | 経営研究委員会  |
| ◎ 12 月 10 日 (金) | 運営担当理事会議 |

③ 懇 談 会 等

- |                 |                                 |
|-----------------|---------------------------------|
| ◎ 11 月 12 日 (金) | } 会員講座<br>「OFFICE AUTOMATION」入門 |
| ◎ 11 月 19 日 (金) |                                 |
| ◎ 11 月 26 日 (金) |                                 |

- ◎ 11月11日(木) 講演会( JOEA との共催 )
- ◎ 11月22日(月) 日系4 機関連絡会議
- ◎ 11月25日(木) 日本政府派遣ミッションと  
の懇談会

④来星ミッション

- ◎ 11月27日(土) 山形県商工会議所連合会
- ◎ 12月 2日(木) 関西経済同友会ミッション

(2)本所 OFFICE 契約の更新

本年末で期限切れとなる本所 OFFICE の契約を S\$60/  
m<sup>2</sup>、3年間据置きにて更新することが報告された。

4. 会 計 報 告

吉永財務委員より、1982年11月分の会計報告があり、  
異議なく承認された。

5. 入 ・ 退 会

高橋組織担当理事より、下記6件の入会申込についての報  
告があり、以下の通り決定した。

- \*\* DAIFUKU MACHINERY WORK LTD. ----- “ B ”
  - \*\* EPSON ELECTRONICS (S) PTE. LTD. ----- “ C ”
  - \*\* RES PTE. LTD. ----- “ B ”
  - \*\* AOKI CONSTRUCTION CO., LTD. ----- “ B ”
  - \*\* OYO CORPORATION. ----- “ B ”
  - \*\* MR. A. MURAKAMI (PRICE WATER HOUSE) ----- “ D ”
- なお、退会はなかった。

以 上

## MEDISAVE SCHEME に関する意見

シンガポール日本商工会議所

欧米及び日本における医療費の国家負担増の実態に鑑み、当国保健省（MINISTRY OF HEALTH）が検討している MEDISAVE SCHEME は、シンガポールの将来における年令構成を考慮しつつ医療費の自己負担という考え方を導入しており、基本的には賛同する。しかしながら、その実施に際しては下記の諸点に特段の配慮を払うことが必要である。

### 記

1. 保健省の MEDISAVE SCHEME（案）によると、MEDISAVE から支出される医療費は入院費用に限定されているが、医療費全体に適用されることが望ましい。因みに、現状では医療費における会社負担の 9 割以上が入院費用以外のものである。但し、財政状況を勘案してその実施が困難と思われる際には、少なくとも外来患者から初診料等を徴収すべきである。
2. 現行の労働協約において、入院費用等は企業負担としている場合が大部分であるが、MEDISAVE SCHEME が実施される際には、同項は全面的に MEDISAVE SCHEME に移行するよう政労使の合意を得ることが必要である。
3. 当国の CPF は世界でも高水準にあるが、MEDISAVE SCHEME の実施を理由として、CPF の負担増を招来することがないように配慮すべきである。



1983年1月6日現在

シンガポール日本商工会議所役員・監事・名誉会員・  
顧問・オブザーバー 一覧

( 正副会頭 )

会 頭：水戸 清 氏 ( 日立造船 )

副会頭：青柳 茂雄氏 ( 三井物産 )

副会頭：田中 寛治氏 ( 三菱銀行 )

( 担 当 )

総務担当 : 大 山 治 郎氏 ( 日商岩井 )

組織担当 : 高 橋 治 氏 ( 新日本製鉄 )

企画担当 ( 正 ) : 後 藤 敏 邦氏 ( トミー・シンガポール )

企画担当 ( 副 ) : 西 村 福太郎氏 ( 住友商事 )

渉外担当 : 倉 重 正 樹氏 ( 東京海上火災保険 )

財務担当 : 平 井 喜 平氏 ( 三井銀行 )

労働担当 ( 正 ) : 古新居 康 氏 ( ジュロン・エンジニアリング )

・ ・ ( 副 ) : 後 藤 敏 邦氏 ( トミー・シンガポール )

・ ・ ( 副 ) : 筒 井 義 雄氏 ( 伊勢丹 )

・ ・ ( 副 ) : 小 出 富 夫氏 ( 松下電器 )

・ ・ ( 副 ) : 渡 部 悌 介氏 ( シンガポール・タイム )

( 部 会 )

第一工業部会 ( 正 ) : 早船 好蔵氏 ( 岡本工作機械 )

第一工業部会 ( 副 ) : 大崎 直道氏 ( 日立金属 )

第二工業部会 : 七戸 真次氏 ( ハイモールド )

第三工業部会 : 黒岩 勉 氏 ( NEC・シンガポール )  
建設部会 : 古田 孝行氏 ( 熊谷組 )  
貿易部会 : 三宅 源嗣氏 ( 丸 紅 )  
金融保険部会 : 湯本 佳伸氏 ( 住友銀行 )  
運輸通信部会 : 安田 達夫氏 ( 大阪商船三井船舶 )  
流通サービス部会 : 今中 太郎氏 ( ニットクラフト )  
化学品石油部会 : 豆原 寛 氏 ( 伊藤忠 )

( 委 員 会 )

広報委員会 : 吉村 晃 氏 ( 日本郵船 )  
経営研宮委員会 ( 正 ) : 渡部 悌介氏 ( シンガポール・タイム )  
経営研究委員会 ( 副 ) : 筒井 義雄氏 ( 伊勢丹 )

( 全 般 )

大 塚 泰 氏 ( 千代田化工建設 )  
林 孝雄 氏 ( 三菱商事 )  
生 松 俊也 氏 ( 東京銀行 )  
福 田 哲治 氏 ( 第一勧業銀行 )

( 監 事 )

森 茂二郎氏 ( シンガポール・ジャパン・マーチャント・バンク )  
福 田 俊介 氏 ( シンガポール・野村・マーチャント・バンク )

( 名誉会長 )

桜 井 清彦 氏

( 顧 問 )

末 包 盛之 氏 ( 日商岩井 )  
福 森 鋭一 氏 ( 住友商事 )  
小見山 大輔 氏 ( PETROCHEMICAL CORPORATION OF S'PORE  
(PTE) LTD. )

馬 場 太 平 氏 ( 三 菱 シ ン ガ ボ ー ル 重 工 業 株 式 会 社 )

町 田 栄 次 郎 氏 ( 東 レ ( ア ジ ア ) 株 式 会 社 )

( 事 務 局 長 )

川 崎 克 洋 氏

( オ ブ ザ ー バ ー )

沢 池 忍 氏 ( J E T R O )

辻 彰 一 氏 ( J O E A )

平 山 登 喜 男 氏 ( 日 本 大 使 館 )





**TABLE 1: REAL GROSS DOMESTIC PRODUCT**  
(Percentage Change over Previous Year)

| SECTORS                       | 1981 | 1982e |
|-------------------------------|------|-------|
| OVERALL                       | 9.9  | 6.3   |
| Manufacturing                 | 10.0 | -5.1  |
| Trade                         | 5.9  | 4.8   |
| Transport & Communication     | 12.6 | 11.1  |
| Financial & Business Services | 18.0 | 16.8  |
| Construction                  | 17.0 | 35.0  |

Note: e: estimated

**TABLE 2: PRODUCTIVITY INCREASES IN SINGAPORE**  
(Percentage Change over Previous Year)

| SECTORS                       | 1981 | 1982* |
|-------------------------------|------|-------|
| OVERALL ECONOMY               | 5.4  | 0.9   |
| Manufacturing                 | 9.5  | -5.4  |
| Trade                         | -0.3 | -2.8  |
| Transport & Communication     | 9.4  | 7.6   |
| Financial & Business Services | 5.7  | 5.4   |
| Construction                  | -0.2 | 4.4   |

Note: \* Based on employment growth derived from CPF records for the first nine months of 1982.

TABLE 3: GDP, INFLATION AND PRODUCTIVITY GROWTH RATE,  
1981 AND 1982

| Country                    | 1981                |           |              | 1982                |                   |                   |
|----------------------------|---------------------|-----------|--------------|---------------------|-------------------|-------------------|
|                            | Real<br>GNP/<br>GDP | Inflation | Productivity | Real<br>GNP/<br>GDP | Infl-<br>ation ** | Productivity      |
| ASEAN                      |                     |           |              |                     |                   |                   |
| Indonesia                  | 7.6                 | 12.2      | -            | 4.5                 | 15.0              | -                 |
| Malaysia                   | 6.9                 | 9.6       | 3.9*         | 3.9                 | 6.5               | 1.5*              |
| Philippines                | 4.9                 | 12.4      | -            | 4.0                 | 11.0              | -                 |
| Thailand                   | 7.6                 | 12.7      | 4.5*         | 4.5                 | 10.0              | -                 |
| Singapore                  | 9.9                 | 8.2       | 5.4          | 6.3                 | 4.0               | 0.9               |
| NICs                       |                     |           |              |                     |                   |                   |
| Taiwan                     | 5.5                 | 16.3      | 3.5*         | 3.8                 | 5.5               | 1.2*<br>(Jan-Mar) |
| Hong Kong                  | 11.0                | 15.4      | 2.8*         | 4.0                 | 12.0              | -                 |
| South Korea                | 6.4                 | 23.3      | 4.5*         | 6.0                 | 4.2               | 2.7*<br>(Jan-Jun) |
| SELECTED OECD<br>COUNTRIES |                     |           |              |                     |                   |                   |
| US                         | 1.9                 | 10.4      | 0.8          | -1¾                 | 6                 | -1                |
| Japan                      | 3.0                 | 4.9       | 2.1          | 2½                  | 2¾                | 1½                |
| West Germany               | -0.2                | 5.9       | 0.6          | -1¼                 | 5                 | ½                 |
| France                     | 0.3                 | 13.4      | 1.0          | 1½                  | 11½               | 2                 |
| UK                         | -2.2                | 11.9      | 2.7          | ½                   | 8½                | 3½                |

Note \* Productivity figures are not published by these countries but derived from GDP divided by employment. The latest employment figures for the other countries however are not available for productivity growth calculation.

\*\* Private consumption deflators are used for OECD countries.

## 12月—'83年 1月の主な経済記事

- 12月16日 〇シンガポールの新車販売台数は景気の低迷が伝えられるなかで依然として増え続けている。シンガポール自動車業者連盟の統計によると、今年1～10月の間に当地で販売された新車台数は2万6335台で昨年同期の2万5289台よりも4%増加している。
- 12月20日 〇シンガポールの工業生産指数及び経済調査結果によれば、シンガポールの食品・飲料・タバコ工業は1960年から70年までの発展期には年平均16.6%の高度成長を達成したが、70年から80年までの10年間にはすでに基盤が拡大していた為、平均成長率は11.3%にスローダウンした。同業界の生産高は60年の1億5350万Sドルから、80年には20億Sドル余に増加、事業所数も124から302に増えている。地元企業の食品工業における投資総額は明らかでないがEDBの数字によると食品・飲料・タバコ工業における外国投資総額は1981年現在3億100万Sドルにのぼっている。同工業の労働者1人当たり付加価値は60年にわずか7000Sドルであったが、80年には3万300Sドルに達した。
- 83年1月 6日 〇ジュロンタウン公社は今年下半期から9年間に20



億\$ドルを投じて、ジュロン西部 Tuns Village 沿岸に600Haの埋主て地を造成する計画である。現在JTCはジュロン工業団地内に900Haの末使用地を所有しているが、これらは80年代中期まで利用され尽す見通しで、目下造成中の65Haを含む100Haの臨海地も将来8年の間に全て利用されるものと予想される。この為JTCは新たな臨海工業用地の確保を迫られていた。新造成地は造船、オイル・リグ建造、重機製造など海事関連工業に割当てられる。

1月11日 ○ 国家開発省は82年第3四半期中に234件の開発プロジェクトを承認した。これは建設費総額で24億\$ドルにのぼり、第2四半期に承認された19億\$ドルを26%上回るであった。認可された234件のうち、大部分の208件は民間プロジェクトで、その計画建設費総額は14億\$ドルにのぼった。公共プロジェクトは残り26件と件数は少ないが、金額では10億\$ドルとなった。

1月12日 ○ シンガポールの眼鏡業界は昨年第3四半期からリセッションの影響を受け始め、小売、卸売、輸出を通じて販売量が減少している。シンガポールの眼鏡業の小売総額は2200万\$ドル余り、卸売総額は6000万\$ドル、総貿易額は8173万\$ドルでうち輸出が2500万\$ドル、輸入が5590万\$ドル余という。主要貿易相手国のうちでは日本と西独との貿易ギャップが大きく、香港との間では均衡している。

## 広 報 欄

### \*\* ADDRESS RENUMBERING

\* TOKYU LAND CORPORATION SINGAPORE PTE LTD  
24 Raffles Place #19-06  
Clifford Centre  
Singapore 0104

\* KASHO CO LTD  
Asia Insurance Building  
2 Finlayson Green #07-01 & #07-02  
Singapore 0104

\* SHINKO ELECTRIC CO LTD  
10 Anson Road #28-06  
International Plaza  
Singapore 0207

### \*\* CHANGE OF COMPANY'S NAME

\* From Shibusawa & N.T.Y. Transportation Co (Pte) Ltd  
to Shibusawa Meishin & N.T.Y. Transportation Co (Pte) Ltd

### \*\* CHANGE OF NAME OF REPRESENTATIVE

\* SHINKO ELECTRIC CO LTD  
From Mr. K. Sato to Mr. H. Tsujino

\* THE BANK OF TOKYO, LTD  
From Mr. H. Kishi to Mr. T. Oimatsu

\* MALAYSIA SHIPYARD & ENGINEERING SDN BHD  
From Mr. M. Sekiya to Mr. T. Hosaka

\* HITACHI ELECTRONIC DEVICES (S) PTE LTD  
From Mr. M. Kutsukake to Mr. A. Yokoi

\* UTOKU EXPRESS CO LTD  
From Mr. Y. Onuma to Mr. T. Takahashi

\* IWATANI & CO LTD  
From Mr. Y. Nosaka to Mr. Y. Ono

# 資料案内

## 国内一般

|                           |       |
|---------------------------|-------|
| ☆シンガポール共和国概要(1981年) ..... | S\$10 |
| シンガポール共和国移住法 .....        | S\$15 |
| ☆民事法 .....                | S\$ 5 |
| 刑法(暫定規定法) .....           | S\$10 |
| ☆公益事業法 .....              | S\$10 |

## 投資関係

|                              |       |
|------------------------------|-------|
| トップマネジメントのためのオリエンテーション       |       |
| (改訂版).....(非会員) .....        | S\$40 |
| (会 員) .....                  | S\$20 |
| 資金援助制度の手引き .....             | S\$ 8 |
| 法律15号(経済拡大奨励法改正法)1979年 ..... | S\$ 5 |

## 租税・税制

|                                       |       |
|---------------------------------------|-------|
| 法律第2号共和国所得税法改正(1973年) .....           | S\$ 5 |
| 法律第13号 " (1977年) .....                | S\$ 5 |
| 法律第17号 " (1980年) .....                | S\$ 5 |
| 法律第20号共和国所得税(改正)令 .....               | S\$ 5 |
| ☆シンガポールとの租税(所得)条約 .....               | S\$ 5 |
| ☆法律(改正)時報第21号(経済拡大奨励法及び所得税法改正法) ..... | S\$ 5 |
| ☆シンガポールの租税 .....                      | S\$15 |

## 会社法

|                                  |       |
|----------------------------------|-------|
| シンガポール共和国会社法.....(会 員) .....     | S\$60 |
| (非会員) .....                      | S\$70 |
| 法律第1号(共和国会社法改正)1970年 .....       | S\$ 5 |
| 法律第4号(共和国会社法改正)1974年 .....       | S\$ 5 |
| 法律第19号1980年中央厚生年金法告示(付表の入替) .... | S\$ 5 |
| ☆法律16号(会社の買収及び合併に関する) .....      | S\$ 5 |



## 為替管理・関税

|                                   |        |
|-----------------------------------|--------|
| 関税法 ( 1979 年関税令 ) .....           | S\$ 15 |
| 法律第 6 号 ( 為替管理法改正 ) 1976 年 .....  | S\$ 5  |
| 法律第 9 号 ( 共和国関税法改正 ) 1976 年 ..... | S\$ 5  |
| ☆金融業者法 .....                      | S\$ 10 |
| ☆財務諸表公開原則 .....                   | S\$ 15 |

## 業種別規則

|                                  |        |
|----------------------------------|--------|
| シンガポール共和国製造業管理法 .....            | S\$ 8  |
| 法律第 18 号工場法改正法 ( 1973 年 ) .....  | S\$ 5  |
| 大気汚染防止法 ( 1971 年 ) .....         | S\$ 10 |
| ☆建築物規制法 ( 1973 年法律第 59 号 ) ..... | S\$ 5  |

## 特許・商標・その他

|                             |        |
|-----------------------------|--------|
| シンガポール共和国特許 ( 実施権 ) 法 ..... | S\$ 5  |
| シンガポール共和国商標法 .....          | S\$ 10 |
| 価格規則法 .....                 | S\$ 5  |
| ☆1975 年水質汚染規制及排水法 .....     | S\$ 10 |
| ☆1971 年海汚染防止法 .....         | S\$ 5  |

## 労働関係

|                                              |        |
|----------------------------------------------|--------|
| 労働組合法 ( 1977 年 ) .....                       | S\$ 10 |
| 法律第 3 号 ( 共和国労働雇用法改正 ) 1970 年 .....          | S\$ 5  |
| ☆法律 ( 改正 ) 時報 ( 第 25 号 ) .....               | S\$ 5  |
| ☆法律 ( 改正 ) 時報 ( 第 26 号 ) .....               | S\$ 5  |
| ☆法律 ( 改正 ) 時報第 22 号 ( 雇用法並びに労働者補償法 ) .....   | S\$ 5  |
| ☆法律 ( 改正 ) 時報第 23 号 ( 中央厚生年金法改正法 ) .....     | S\$ 5  |
| ☆労働雇用法 ( 1976 年幼少年雇用規則 ) .....               | S\$ 5  |
| ☆法律 ( 改正 ) 時報第 24 号 ( 中央厚生年金改正法 ) .....      | S\$ 5  |
| ☆雇用法の手引き .....                               | S\$ 10 |
| ☆法律 ( 改正 ) 時報第 27 号 ( 中央厚生年金法を改正する法律 ) ..... | S\$ 5  |

## 商工会議所出版物

|                                |               |        |
|--------------------------------|---------------|--------|
| ☆業種別会員名簿 ( 1982 年 ) .....      | ( 会 員 ) ..... | S\$ 10 |
|                                | ( 非会員 ) ..... | S\$ 20 |
| 月報 ( 各月号 ) .....               |               | S\$ 8  |
| ☆国際比較統計要覧 .....                |               | S\$ 5  |
| ☆シンガポール共和国における日系進出企業現況一覧 ..... |               | S\$ 20 |

( ☆ 新着資料 )

## 編集後記

「月報」読者の皆様、明けましてお目出度うございます。

1983年の正月号をお届けします。最近はどうも不景気な話が多いのですが、年後半からの景気回復を祈念し乍ら、ご覧の通り、今年の表紙は明るくすがすがしいものを選びました。

さて、新年号に際しまして、冒頭では例年通り、シンガポール日本商工会議所の理事、顧問、オブザーバー各位から**新年随想**をご寄稿願いました。その内容は、時節柄、現在の不況克服対策が多く取り上げておられるほか、趣味、文化面まで幅広いものとなっております。この中で、私見で恐縮ですが、某理事の「春を待つ」を校正しながら胸にこみあげてくるものを禁じ得なかったのは私だけでしょうか？この他、いずれも力作揃いでありますので是非ともご一読下さい。

つぎに、“10年単位で見た日・シ関係”と副題が示す通り、日本・シンガポールの両国関係を「1983—73—63—53」と特徴的に把えて日本経済新聞の**斎藤総局長**よりご寄稿頂きました。いつもの明解な分析は、今後私共が日・シ関係を考慮する際貴重な指針となるものと確信いたします。

一方、会議所関係のニュースとして、去る12月に実施いたしました“JUGAS（元在日大学卒業生協会）メンバー招待のタベ”を掲載いたしております。

年の始めに当り、読者皆様並びに家族の皆様の益々のご健勝を広報委員会一同心からお祈り申し上げます。

今月号の担当は、**吉川（凸版）、内山（渋沢倉庫）**でした。

# **MONTHLY REVIEW**

**STRICTLY MEMBERS ONLY**

**M. C. (P) No. 21 / 9 / 82**

**JAPANESE CHAMBER OF COMMERCE & INDUSTRY SINGAPORE**

**C. P. F. BUILDING , 79 ROBINSON ROAD , 24 - 04 (24th Storey) SINGAPORE 0106**

PRINTED BY  
GREEN MOUNT PUBLICATION & PRINTING CO.  
#02-11/12, Block 1, Flatted Factory, Kallang Way,  
Singapore 1334. Tel: 2923831